箱　崎　42

－ 箱崎遺跡第28次・第33次調査報告 －

福岡市埋蔵文化財調査報告書　第1127集

2011

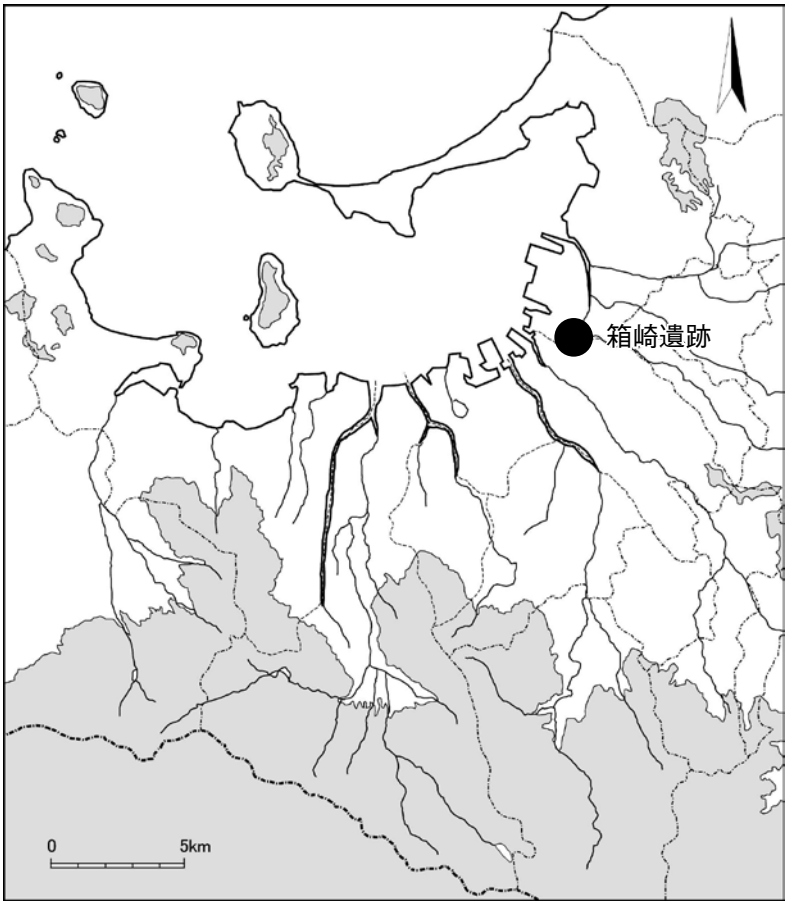
福岡市教育委員会

HAKO　　ZAKI

箱　崎　42

―箱崎遺跡第28次・第33次調査報告―

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1127集



２０１１

福岡市教育委員会

序

福岡市は古くから東アジアとの対外交渉の窓口として発展してきました。このような環境のもとに数多くの埋蔵文化財が残されており、本市におきましてはこの保護と活用に努めているところであります。

本書は箱崎遺跡第28次・第33次調査の記録です。調査の結果、多量の貿易陶磁器や瓦の出土を含め、箱崎・馬出の歴史を知るうえで多くの貴重な資料を得ることができました。

本書が市民の皆様の埋蔵文化財保護のご理解の一助として、また研究資料として役立てば幸いです。

最後になりましたが、調査にあたり多くの方々のご理解、ご協力を賜りましたことに対し、心より感謝の意を表する次第です。

平成 23 年 3 月 18 日

福岡市教育委員会
教育長　山 田　裕 嗣

例　　言

1．本書は福岡市教育委員会が住宅建設及び納骨堂建設に伴い、東区馬出地内において実施した箱崎遺跡第28次・第33次調査の報告書である。
2．本書で報告する各調査の調査番号、遺跡略号は以下のとおりである。

	調査番号	遺跡略号
第 28 次調査	0118	ＨＫＺ－28
第 33 次調査	0236	ＨＫＺ－33

3．本書に掲載した遺構実測図の作成は中村啓太郎、高木誠、福田匡明、上田龍児、渡辺誠、安藤史郎が行った。
4．本書に掲載した遺物実測図の作成は調査担当者が行った。
5．本書に掲載した挿図の製図は調査担当者の他、林由紀子が行った。
6．本書に掲載した遺構、遺物写真の撮影は調査担当者が行った。
7．本書で記述する出土遺物の分類は以下の文献を参考とした。
太宰府市教育委員会「大宰府条坊跡ＸＶ」 太宰府市の文化財第49集
8．本書で使用した方位は磁北である。
9．本調査に関わる記録、遺物等は福岡市埋蔵文化財センターに収蔵保管される予定である。
10．執筆はⅠ～Ⅲ- ５を中村が行い、Ⅲ- ６を九州大学大学院比較社会文化研究院 中橋孝博教授に依頼した。編集は中村が行った。

本文目次

Ⅰ．箱崎遺跡の位置と環境 …… 1
　1．位置と環境 …… 1
　2．これまでの調査 …… 4
Ⅱ．第28次調査 …… 5
　1．調査に至る経過…… 5
　2．調査体制…… 5
　3．調査の概要…… 5
　4．調査の記録…… 7
　　⑴ 土坑・柱穴 …… 7
　5．小結 …… 10
Ⅲ．第33次調査 …… 13
　1．調査に至る経過…… 13
　2．調査体制…… 13
　3．調査の概要…… 13
　4．調査の記録…… 14
　　⑴ 井戸 …… 14
　　⑵ 土坑 …… 16
　　⑶ 溝状遺構 …… 26
　　⑷ 埋葬遺構 …… 27
　　⑸ その他の出土遺物 …… 27
　5．小結 …… 28
　6．福岡市箱崎遺跡33次調査出土の中世人骨 …… 29

挿図目次

第 1図　周辺遺跡分布図（1/25,000）…… 2
第 2図　箱崎遺跡調査区位置図（1/5,000） …… 3
第 3図　第28次調査区位置図（1/500）…… 6
第 4図　第28次調査遺構配置図（1/100）…… 6
第 5図　第28次調査土層実測図（1/50）…… 7
第 6図　SK1･SK10･SK11･SP12･SK15･SK16実測図（1/40） …… 8
第 7図　SK1･SK10･SK11･SP12･SK15･SK16出土遺物実測図（1/3・1/4） …… 9
第 8図　第33次調査区位置図（1/500）…… 14
第 9図　第33次調査遺構配置図（1/100）…… 15
第10図　第33次調査土層実測図（1/50） …… 16
第11図　SE71実測図（1/40） …… 17

第12図　SE71出土遺物実測図（1/1・1/3）…… 18
第13図　SK2･3･4･5･6･23･37･38･39実測図（1/40）…… 19
第14図　SK2･3･5･6･38･39出土遺物実測図（1/1・1/3・1/4）…… 20
第15図　SK40･41･60･61･70実測図（1/40）…… 21
第16図　SK64･67･76･83･89実測図（1/40）…… 22
第17図　SK40･60･61･64･67･76･83出土遺物実測図（1/3・1/4）…… 23
第18図　SD62･63･69･80･88実測図（1/40）及びSD62･63･69･88出土遺物実測図（1/3・1/4）　25
第19図　SK17実測図（1/20）…… 27
第20図　その他の出土遺物実測図（1/3）…… 27

図版目次

図版１　⑴ 第28次調査区全景（北から）　⑵ 南壁土層（北から）
⑶ ＳＫ１（南から）　⑷ ＳＫ１１（北から）
図版２　⑴ ＳＰ１２（北から）　⑵ ＳＫ１６（北から）
⑶ 第28次調査出土遺物
図版３　第33次調査区全景（東から）
図版４　⑴ ＳＥ７１（西から）　⑵ ＳＫ２（西から）
⑶ ＳＫ３（西から）
図版５　⑴ ＳＫ４（北から）　⑵ ＳＫ５（西から）
⑶ ＳＫ６（西から）　⑷ ＳＫ３７（西から）
⑸ ＳＫ３７土層（南から）　⑹ ＳＫ３８（西から）
図版６　⑴ ＳＫ３８土層（北から）　⑵ ＳＫ３９（東から）
⑶ ＳＫ６０（北から）　⑷ ＳＫ６４（東から）
⑸ ＳＫ６７（西から）　⑹ ＳＤ６２・６３土層（東から）
図版７　⑴ ＳＤ６９土層（南から）　⑵ ＳＫ１７（東から）
図版８　第33次調査出土遺物

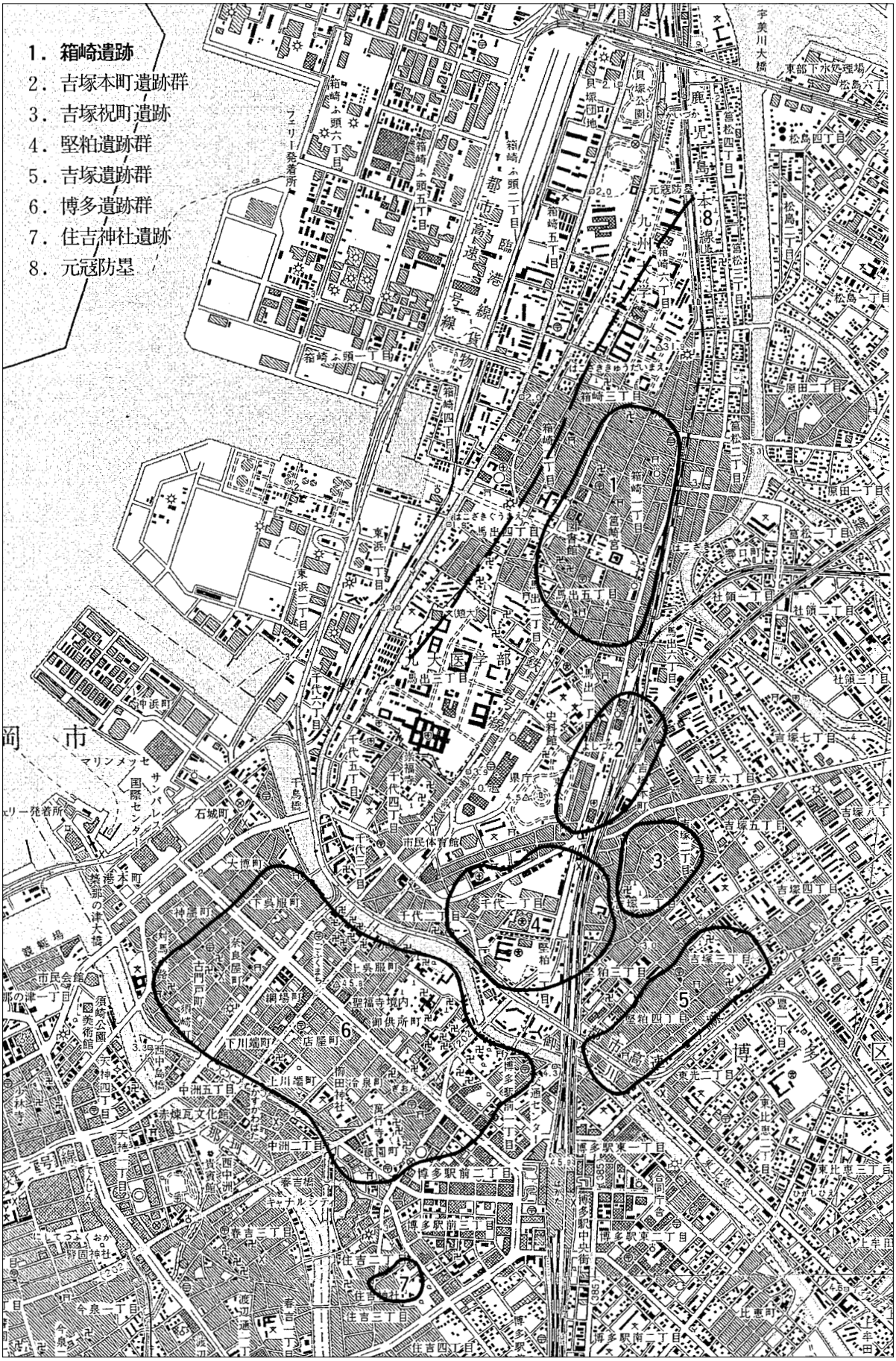
Ⅰ．箱崎遺跡の位置と環境

１．位置と環境

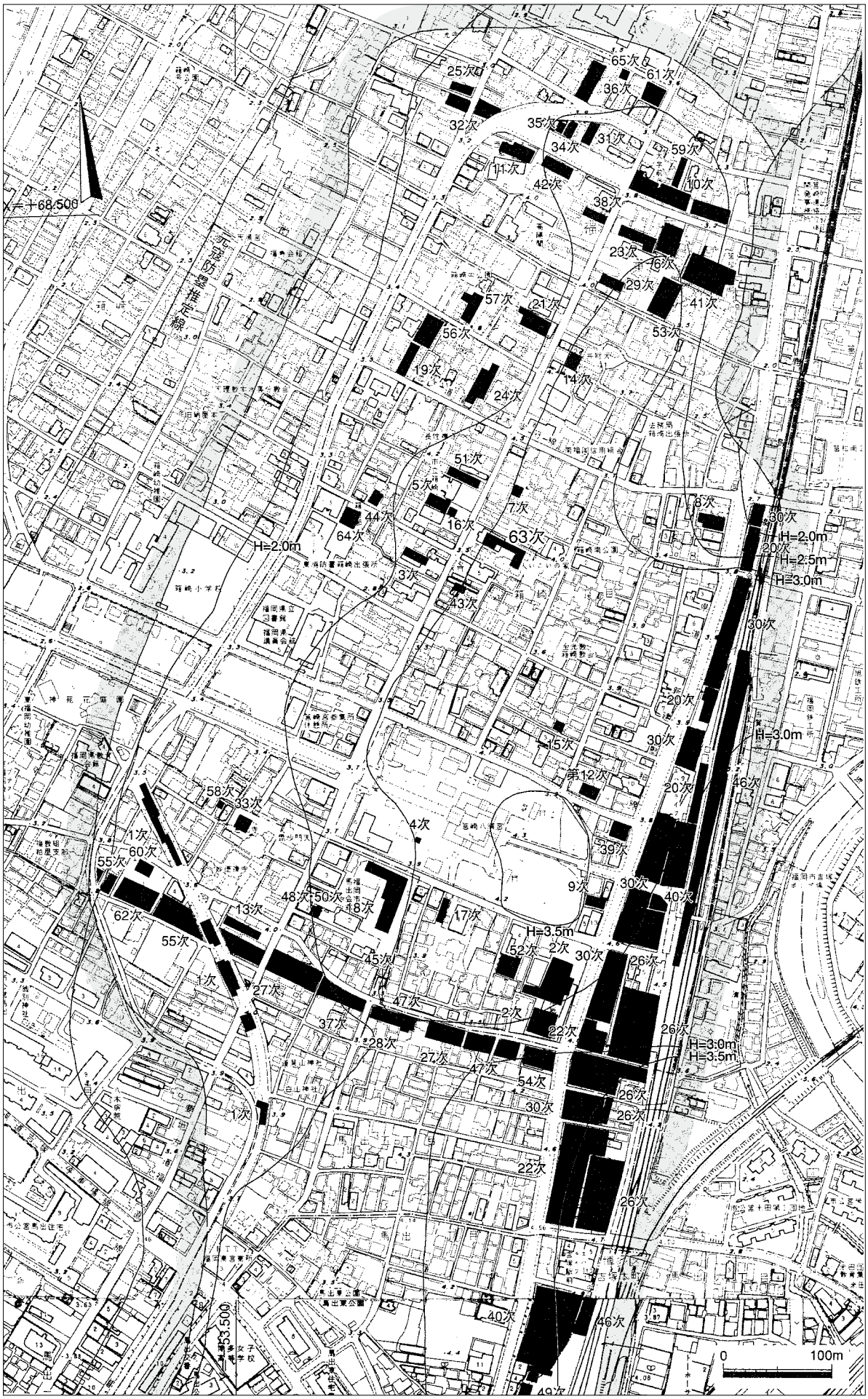
箱崎遺跡は宇美川下流域、多々良川河口左岸の博多湾に面し、南北に延びる砂丘上に位置する。この砂丘は箱崎砂層と呼ばれ、本遺跡付近から室見川河口付近まで分布しており、本遺跡を含め多くの遺跡が立地している。砂丘の形成時期は考古学的及び地質学的調査成果から縄文時代後期以降と考えられている。本遺跡が分布しているのは概ね南北1000m 、東西500mの範囲で標高2.0～3.5mを測る。

本遺跡は1983年の地下鉄建設に伴う第１次調査以来、60次を越える調査が行われているが、調査が本格化するのは1990年代以降で、縄文時代晩期～近世に至る各時期の遺構、遺物が確認されている。縄文時代晩期～弥生時代は第6次調査において出土した磨製石斧が最も古く、縄文時代晩期～弥生時代前期初頭のものと考えられるが、該期の遺構に伴わない。弥生時代中期～後期の土器は18・30次調査で確認されている。古墳時代は竪穴住居や円形及び方形周溝墓等が確認されている。８次調査では飯蛸壺を多量に出土しており、生業を考える上で興味深い。奈良時代になると遺物は散見されるものの遺構については判然としない。10世紀に入ると以降の箱崎遺跡の中心となる筥崎宮が創建される。延喜21年に八幡神の託宣により、穂波郡大分宮から遷座して延長元年に建てられたとされる。それは大分宮の節会に参詣する大宰府の役人が竈門宮に不敬を行う、郡司百姓等が饗膳するのに険しい山越えをしなければならない、放生会を行うのに海ではないため不適当であるという３つの理由からとされる。しかし実際のところ、新羅に対する宗教的防御や、この地が対外貿易の地点として重要であったことも大きく作用したと考えられている。この時期の遺構は後の時期に比べさほど多くなく、筥崎宮の東を中心に分布する。これ以降遺跡は西側に拡大して行き、13世紀代以降にはほぼ全域に分布する。また25･32･36次調査によって遺跡の範囲が北及び北東側に拡大することが確認されている。

周辺の遺跡をみると南へ続く砂丘上に吉塚本町遺跡群、吉塚祝町遺跡、堅粕遺跡群、吉塚遺跡群、博多遺跡群が存在している。吉塚本町遺跡群は弥生時代～古代にかけての遺物、遺構が確認されている。出土する瓦や硯から公的施設の存在が考えられている。吉塚祝町遺跡は道路建設に伴って1996年に確認された遺跡である。遺跡を縦断するように行われた第１次調査では弥生時代から中世に至る各時期の遺構が確認され、弥生時代の甕棺墓、古墳時代の住居址、横穴式石室、石棺墓、土壙墓、古代～中世の集落が検出されており、古代においては越州窯系青磁が多量に出土しており注目されている。中世については13世紀～ 14世紀前半を中心に栄え、それ以降急速に衰退する。堅粕遺跡群は吉塚本町遺跡群の南に位置し、弥生時代～古代にかけての遺構が確認されている。北側に弥生時代～古墳時代の遺構が集中し、南側に古墳時代後期から古代の遺構が多くみられる。古代においては越州窯系青磁、緑釉陶器、墨書土器等の出土遺物から公的施設が存在する可能性が考えられている。吉塚遺跡群は吉塚祝町遺跡、堅粕遺跡群の南東に位置し、弥生時代～近世に至る遺物、遺構が検出されている。特筆すべき遺物として貨泉の出土が挙げられる。吉塚遺跡群の南には国際貿易都市として中世を代表する遺跡の一つであり、箱崎遺跡と関係の深い博多遺跡群が位置する。出土する貿易陶磁器類は質、量共に他を圧倒している。調査はすでに150次を超え、弥生時代～近世に至る遺構、遺物が確認されている。さらに南には住吉神社遺跡が位置する。2004年に第1次調査が行われ、中世の遺構が確認されている。



第１図　周辺遺跡分布図（1/25,000）



第２図　箱崎遺跡調査区位置図（1/5,000）

２．これまでの調査

調査次数	所　在　地	面積（㎡）	調査期間	時　　期	主　な　遺　構	報　告　書
第1次	馬出５丁目地内	5000	1983.7.4 ～ 12.18	12世紀後半～ 15世紀	井戸　土坑　溝　埋葬遺構	第193集
第2次	箱崎1丁目18-32外	1500	1986.11.22 ～ 1987.1.20	10世紀後半～ 15世紀	建物地業　建物布張状遺構　井戸　土坑　溝　粘土壙　集石遺構	第79集（県）
第3次	箱崎1丁目2731-1	156	1990.1.09 ～ 2.21	12世紀中頃～ 15世紀	井戸　土坑　溝	第262集
第4次	箱崎1丁目2761		1989.7.5	11世紀	土坑（瓦経）	年報Vol.4
第5次	箱崎1丁目25・27	210	1991.9.9 ～ 10.30	12世紀～ 15世紀	掘立柱建物　柵列　井戸　土坑　埋葬遺構	第273集
第6次	箱崎3丁目2437-1、4	430	1994.10.20 ～ 1995.1.31	12世紀後半～ 13世紀	井戸　土坑　溝	第459集
第7次	箱崎1丁目2711外	85	1994.11.15 ～ 12.27	12世紀前半～ 13世紀	井戸　土坑	第459集
第8次	箱崎1丁目2549-1外	225	1996.10.1 ～ 11.14	古墳時代　12世紀中頃～13世紀	古墳時代の竪穴住居 土坑　中世の溝　井戸　土坑	第591集
第9次	箱崎1丁目1935-1	191	1996.10.2 ～ 10.29	11世紀～ 13世紀	井戸　土坑　溝	第550集
第10次	箱崎3丁目地内	1020	1996.11.11 ～ 1997.3.31	12世紀前半～ 13世紀	井戸　土坑　溝	第551集
第11次	箱崎3丁目3266-1外	385	1997.4.30 ～ 6.27	12世紀後半～ 14世紀	井戸　土坑　ピット	第592集
第12次	箱崎1丁目2606-1、3	155	1997.8.19 ～ 9.22	11世紀～ 13世紀	井戸　土坑　溝　埋葬遺構	第950集
第13次	馬出５丁目520・521	297	1997.10.27 ～ 12.2	15世紀	掘立柱建物　井戸　土坑　溝	第592集
第14次	箱崎1丁目28-15	36	1998.4.2 ～ 5.23	12世紀後半～ 14世紀前半	土坑　溝	第625集
第15次	箱崎1丁目2615	36	1998.5.25 ～ 6.5	11世紀後半～ 12世紀	土坑　溝	第810集
第16次	箱崎1丁目2725	56	1999.1.18 ～ 1.29	11世紀～ 15世紀	井戸　土坑	第703集
第17次	箱崎1丁目20-19	40	1999.3.13 ～ 3.31	12世紀中頃～ 17世紀	土坑　溝　ピット	第704集
第18次	馬出5丁目470	920	1999.6.14 ～ 9.28	12世紀中頃～ 16世紀	井戸　土坑　溝	第664集
第19次	箱崎1丁目2940-1	160	1999.7.29 ～ 8.27	12世紀後半～ 14世紀	掘立柱建物　井戸　土坑　溝	第664集
第20次	箱崎1丁目地内	882	1999.12.13 ～ 2000.3.31	古墳時代　　11 ～ 13世紀	古墳時代の竪穴住居　中世の溝　井戸　土坑　埋葬遺構	第768集
第21次	箱崎1丁目2480	545	2000.3.29 ～ 6.26	12世紀中頃～ 14世紀	掘立柱建物　井戸　土坑　溝　埋葬遺構	第705集
第22次	馬出5丁目・箱崎1丁目	2976	2000.7.24 ～ 2001.3.31	古墳時代　古代末～中世	古墳時代の竪穴住居　埋葬以降　古代末～中世の溝　井戸　土坑	第811集
第23次	箱崎3丁目2404	188	2000.9.22 ～ 2000.11.2	13世紀～ 17世紀	井戸　土坑	第704集
第24次	箱崎1丁目2511外	397	2000.10.23 ～ 2001.1.31	12世紀後半～ 14世紀	井戸　土坑　木棺墓	第768集
第25次	箱崎3丁目地内	87	2001.4.16 ～ 4.26	13世紀後～１４世紀	土坑	第896集
第26次	箱崎1丁目地内	5255	2001.5.5 ～ 2002.3.29	古墳時代　　11 ～ 13世紀	古墳時代の周溝墓　　中世の溝　井戸　土坑　埋葬遺構	第816集
第27次	馬出5丁目地内	1449	2001.6.7 ～ 2002.2.10	12世紀～近世	井戸　土坑　溝　埋葬遺構	第812集
第28次	馬出5丁目24-8	41	2001.7.2 ～ 7.12	中世後半	土坑　ピット	第1127集
第29次	箱崎3丁目2398外	80	2002.4.1 ～ 2002.4.26	12世紀～ 13世紀	土坑　溝　池状遺構	第813集
第30次	箱崎1丁目地内	4997	2002.4.9 ～ 2003.5.13	古墳時代　古代末～中世	古墳時代　竪穴住居　　古代末～中世　掘立柱建物　井戸　土坑　溝	第948集
第31次	箱崎3丁目3358-1	80	2002.5.9 ～ 2002.6.14	12世紀～ 13世紀	井戸　土坑　溝	第813集
第32次	箱崎3丁目地内	442	2002.4.22 ～ 9.20	13世紀～	井戸　土坑　溝　埋葬遺構	第896集
第33次	馬出5丁目502・503	160	2002.9.24 ～ 10.8	12世紀～	井戸　土坑　溝　埋葬遺構	第1127集
第34次	箱崎3丁目3356-1	70	2002.11.14 ～ 12.2	12世紀後～１４世紀	井戸　土坑	整理中
第35次	箱崎3丁目9-33	32	2002.12.2 ～ 12.10	13世紀後～１４世紀	井戸　土坑	整理中
第36次	箱崎3丁目3380	199	2002.12.11 ～ 2003.2.21	14世紀～ 15世紀	井戸　土坑　溝	整理中
第37次	馬出5丁目地内	493	2002.12.13 ～ 2003.3.31	12世紀～	井戸　土坑　溝	第951集
第38次	箱崎3丁目9-49	90	2003.2.3 ～ 3.8	13世紀～近世	井戸　土坑	第814集
第39次	箱崎1丁目2031外	149	2003.4.10 ～ 5.9	12世紀代	井戸　土坑　溝	第854集
第40次	箱崎１丁目地内 馬出１丁目30	2900	2003.5.14 ～ 2004.3.31	弥生時代後期　古墳時代10 ～ 15世紀	井戸　土坑　溝　掘立柱建物　小石室　方形状の溝　円形竪穴状遺構	第949集
第41次	箱崎3丁目2426外	1000	2003.9.16 ～ 12.11	12世紀後半～ 13世紀	井戸　土坑　溝　埋葬遺構	第854集
第42次	箱崎3丁目	260	2003.10.21 ～ 2004.1.21	12 ～ 14世紀	井戸　土坑　溝　方形竪穴状遺構	第896集
第43次	箱崎1丁目2697-1	83	2003.11.21 ～ 12.5	11世紀～ 12世紀	土坑　ピット	整理中
第44次	箱崎1丁目35-3	114	2004.2.16 ～ 3.15	12 ～ 14世紀	井戸　土坑　ピット	第854集
第45次	馬出5丁目地内	152	2004.3.1 ～ 3.22	12 ～ 13世紀	井戸　土坑　ピット	第951集
第46次	箱崎1丁目地内	3000	2004.7.1 ～ 2005.3.31	古墳時代初頭、11世紀～15世紀	井戸　土坑　溝	第948集
第47次	馬出5丁目地内	1071	2004.7.21 ～ 2005.4.13	12世紀～ 16世紀	井戸　土坑　溝	第1046集
第48次	馬出5丁目461-1	87	2004.11.26 ～ 11.28	近世	土坑　ピット	整理中
第49次	馬出1丁目30地内	495	2005.4.1 ～ 2006.2.13	古墳時代、12 ～ 14世紀	井戸　土坑　ピット　溝　埋葬遺構　方形竪穴状遺構	第949集
第50次	馬出5丁目461-1	69	2005.5.12 ～ 6.4	中世後半～近世	掘立柱建物　井戸　土坑　溝状遺構　柱穴	整理中
第51次	箱崎1丁目36、37	270	2006.1.16 ～ 4.11	古代～中世	掘立柱建物　井戸　土坑　溝状遺構　柱穴	第952集
第52次	箱崎1丁目1927番他	350	2006.6.15 ～ 8.28	11世紀～	井戸　土坑　溝	第997集
第53次	箱崎3丁目2442－1	495	2006.10.10 ～ 12.1	12世紀後半～近世	井戸　土坑　溝	第996集
第54次	馬出5丁目95他	333	2006.10.26 ～ 2007.2.28	10世紀後半～ 15世紀後半	井戸　土坑　溝	第998集
第55次	馬出5丁目地内	545	2007.2.1 ～ 5.29	12世紀後半～近世	土坑　溝　ピット	第1046集
第56次	箱崎1丁目2505他	424	2007.2.1 ～ 4.27	13世紀～１4世紀	井戸　土坑　溝	第1047集
第57次	箱崎1丁目2493	245	2007.3.12 ～ 4.27	12世紀後半～近世	井戸　土坑　溝	第999集
第58次	馬出5丁目504番1号	13	2007.9.25	12 ～ 14世紀　近世	井戸　土坑　溝	年報Vol.22
第59次	箱崎3丁目2412－1	156	2007.11.5 ～ 12.15	12 ～ 13世紀　近世	掘立柱建物　土坑　溝　埋葬遺構	第1048集
第60次	馬出5丁目510番	630	2008.1.21 ～ 3.27	近世	溝　近世墓	整理中
第61次	箱崎3丁目3371－1他	190	2008.5.12 ～ 6.12	12 ～ 13世紀　近世	井戸　土坑　溝　埋葬遺構　貝殻焼成遺構	第1092集
第62次	馬出5丁目31他地内	693	2008.7.15 ～ 10.15	12世紀後半乃至13世紀～近世	井戸　土坑　溝　近世墓	第1093集
第63次	箱崎1丁目2704他	1526	2008.7.17 ～ 10.15	12 ～ 14世紀	井戸　土坑　ピット	第1094集
第64次	箱崎1丁目2084-2・9・10	209	2009.8.3 ～ 10.7	11世紀末～ 14世紀	土坑　溝　ピット	第1128集
第65次	箱崎3丁目3374－1他	31	2009.9.9 ～ 10.6	中世前半	土坑　埋葬遺構	整理中
第66次	箱崎1丁目2699-1		2010.6.14 ～ 7.13			
第67次	箱崎1丁目2806-1		2010.927 ～ 12.17			
第68次	箱崎1丁目2930-4他		2011.1.11 ～			

Ⅱ．第28次調査

１．調査に至る経過

平成13年6月15日、個人より福岡市教育委員会文化財部埋蔵文化財課へ専用住宅建築に伴う福岡市東区馬出5丁目24－8における埋蔵文化財の事前審査について依頼がなされた。これを受けた埋蔵文化財課では事業計画地が周知の埋蔵文化財包蔵地である箱崎遺跡に含まれ、周辺調査の状況および建設による地下への影響から協議を重ねたが、現状での設計変更は不可能とのことから発掘調査が必要であると判断がなされた。

調査は平成13年7月2日から開始し、平成13年7月12日に終了した。

２．調査体制

(平成13年度)

調査主体　福岡市教育委員会

調査総括　埋蔵文化財課長　山崎純男

　　調査第2係長　力武卓治

事前審査　事前審査係長　田中壽夫

　　主任文化財主事　大庭康時

　　事前審査係　大塚紀宜

調査庶務　文化財整備課管理係　御手洗清

調査担当　調査第2係　中村啓太郎

調査員　　高木誠　福田匡明（現 熊本県教育委員会）

発掘作業　井料国彦　小川秀雄　園田豊　徳永栄彦　吹春哲男　宮崎雅秀　井上ヨシ子

　　尊田絹代　富永美樹　田中フキ子　光安晶子　安田光代　上田龍児（現 大野城市教育委員会）　渡辺誠（現 高松市教育委員会）　田端名穂子　中村幸子　花田則子

　　安藤史郎　阿部純子　稲崎龍也　崎村雄介　永松弘恵　野田トヨ子　花田昌代　藤澤義一

(平成22年度)

福岡市教育委員会　文化財部　埋蔵文化財第2課

整理作業　林由紀子

３．調査の概要

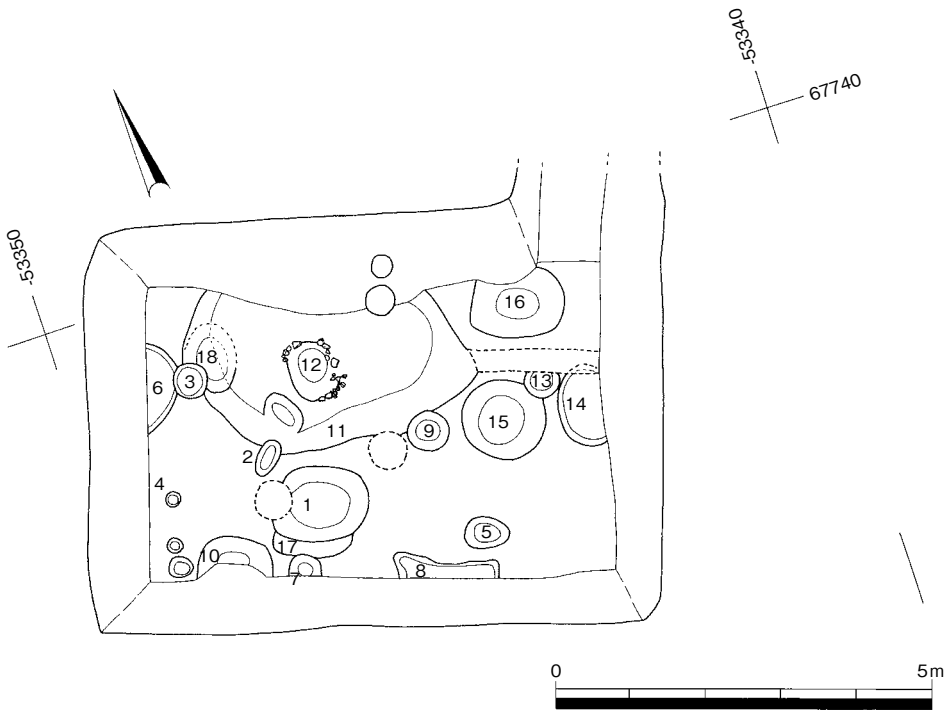
第28次調査は都市計画道路建設により建て替えが必要となった専用住宅建築に伴うものである。

調査区は第2･3図に示した地点で、遺跡の南部、第47次調査区南に隣接する。現況は標高3.8m、調査面積は41.3㎡を測る。調査は平成13年7月2日から重機による表土剥ぎから開始した。その後人力による遺構検出、掘削、実測、写真撮影、遺物取り上げ等を行った。その後埋め戻しを行い、平成13年7月12日に終了した。

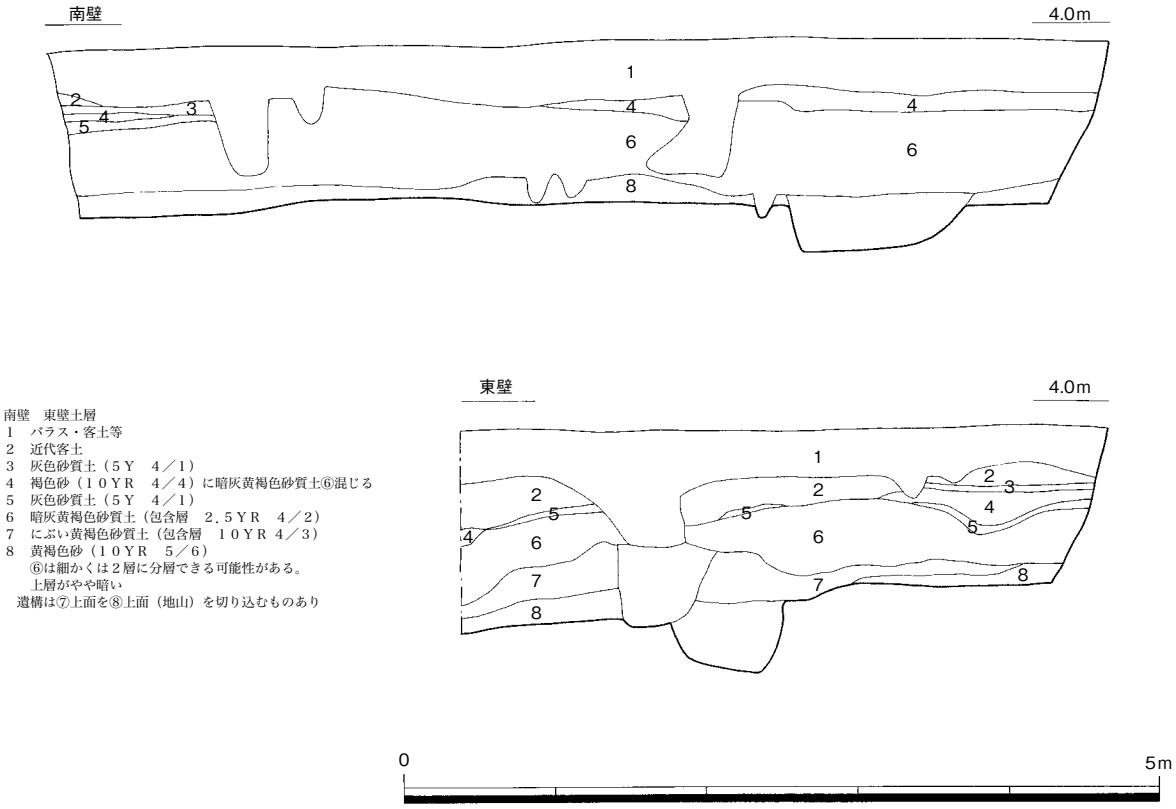
基本層序（第5図）は1．バラス・客土　2．近代客土　3．灰色砂質土　4．褐色砂　5．灰色砂質土　6．暗灰黄褐色砂質土（包含層）　7．にぶい黄褐色砂質土　8．黄褐色砂となる。遺構は7層上面と8層上面より掘り込まれているが、遺構確認が困難であったため、検出作業は7層中位から8層にかけてを行った。

検出遺構は土坑、柱穴等で井戸は確認できていない。また柱穴は建物としてまとめきれていない。遺物は土師器、貿易陶磁器、瓦等を中心にコンテナ3箱出土した。

第３図　第 28 次調査区位置図（1/500）



第４図　第 28 次調査遺構配置図（1/100）



第５図　第 28 次調査土層実測図（1/50）

遺構番号は遺構の性格に関わらず通し番号とした。

４．調査の記録

⑴土坑・柱穴（ＳＫ・ＳＰ）

SK １（第6図）

調査区南に位置し、西側を攪乱に切られる。平面形は楕円形を呈し、長さ140cm程度、幅98cm、深さ32cmを測る。

出土遺物（第7図）1は土師器の高台付皿。2は丸瓦。凸面はナデを施し、凹面には布目が残る。灰色を呈する。他に底部回転糸切りの土師器、黒色土器、陶器、鉄製品が出土している。

SK6（第4図）

調査区西壁にかかる。長さ115cm程度、深さ19cmを測る。遺物は土師器の細片、平瓦片が少量出土している。

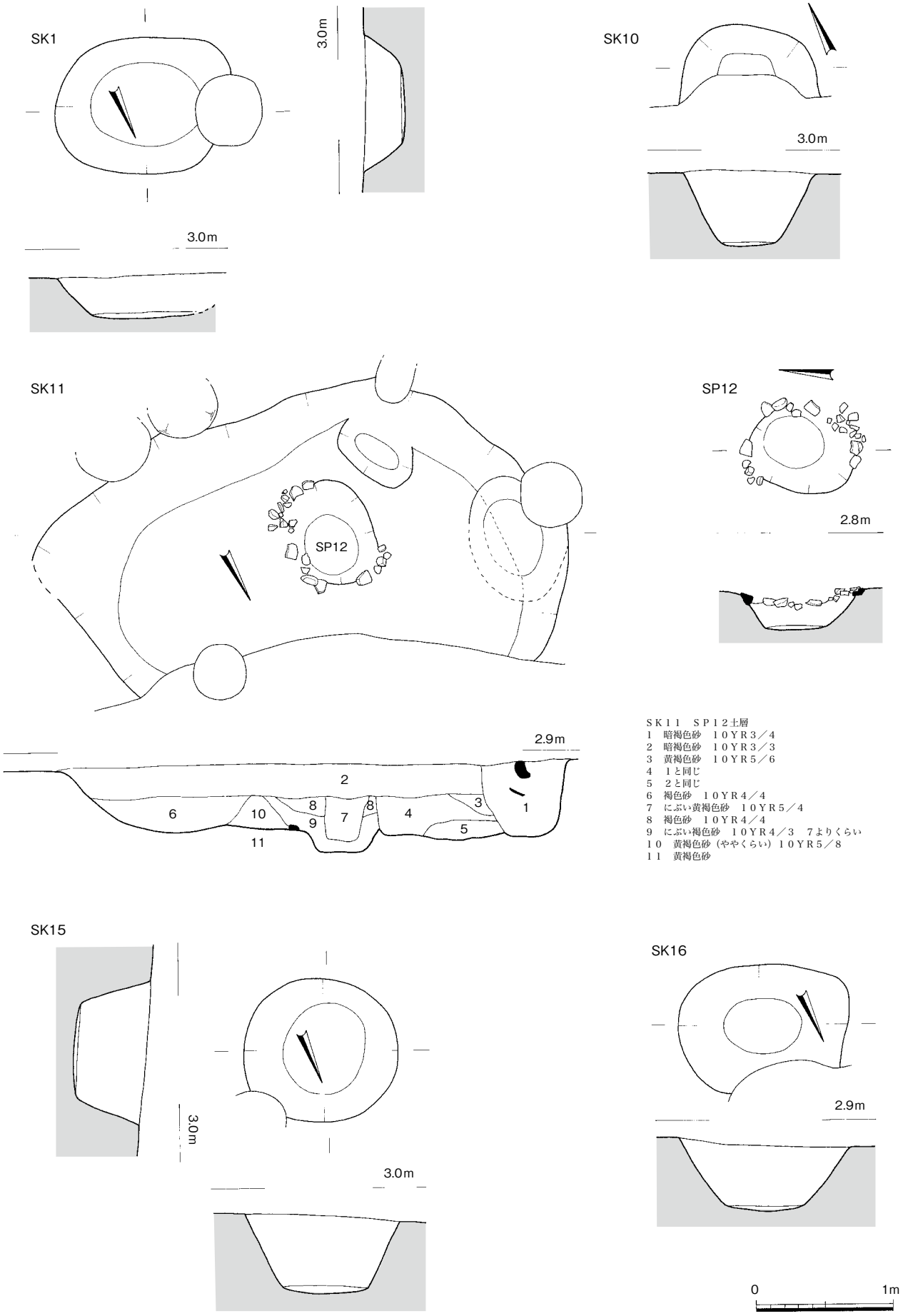
SK8（第4図）

調査区南壁にかかる。平面形は長方形か。長さ140cm、深さ9cmを測る。遺物は白磁、土師器、瓦器の細片が少量出土している。

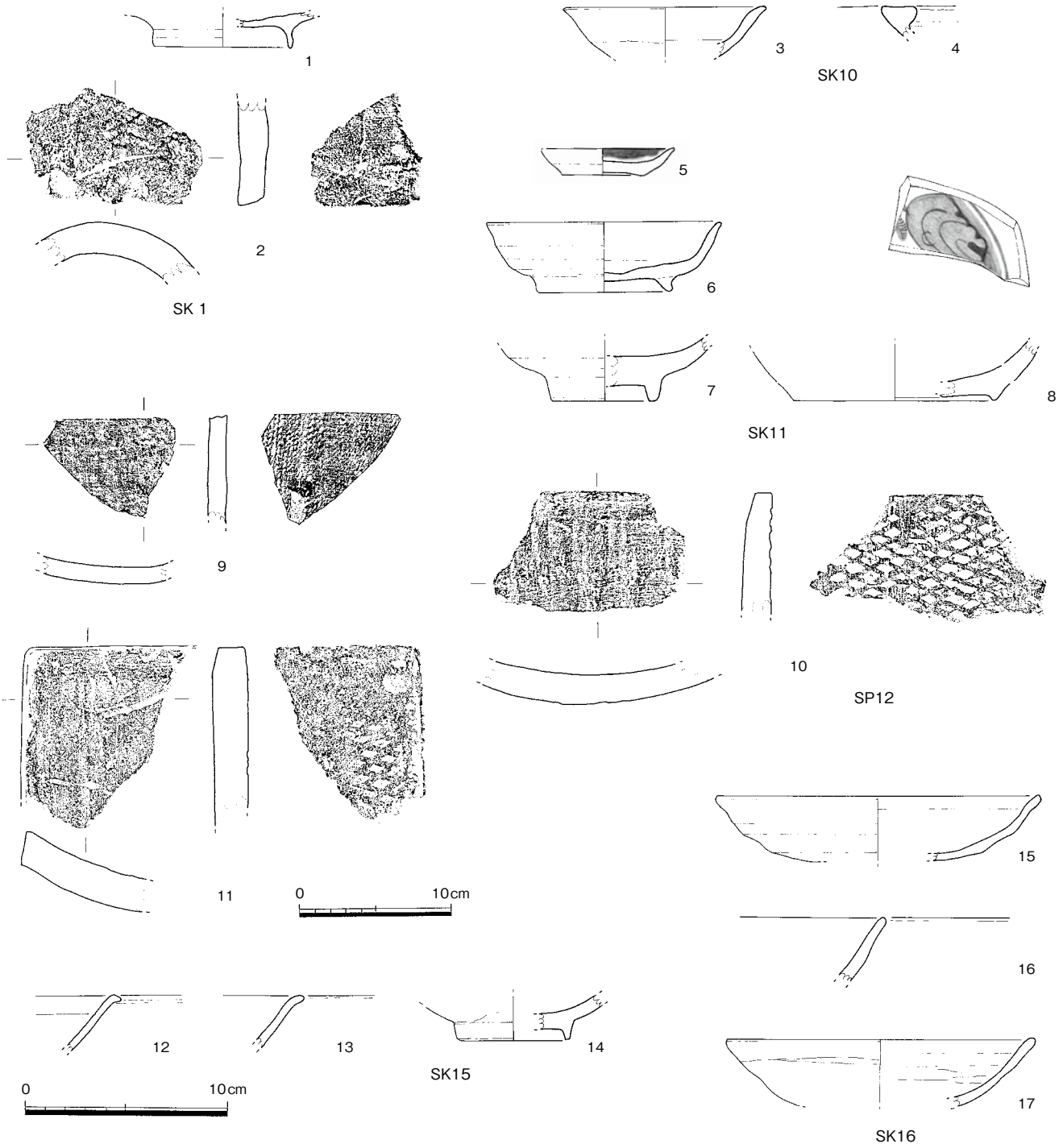
SK10（第6図）

調査区南壁にかかる。平面形は楕円形か。長さ100cm程度、深さ56cmを測る。

出土遺物（第7図）3は白磁の皿で口径10.2cmを測る。釉は灰オリーブ色を呈し、外面下半には施されない。4は陶器の壺で釉は暗オリーブ色を呈する。他に龍泉窯系青磁、底部回転糸切りの土師器等が出土している。



第６図　SK1・SK10・SK11・SP12・SK15・SK16 実測図（1/40）



第７図　SK1・SK10・SK11・SP12・SK15・SK16 出土遺物実測図（1/3・1/4）

SK11（第6図）

調査区北壁にかかり、SP12と切り合う。平面形はやや不整な長方形か。長さ330cm、幅250cm以上、深さ58cmを測る。土層を確認すると2層がSK11のもので下層はいくつかの遺構の切り合いの可能性がある。

出土遺物（第7図）遺物は一括して取り上げたが、前述のとおりいくつかの遺構のものが混じっている可能性が高い。5は土師器の小皿で灯明皿として使用されたもの。口径6.5cm、器高1.4cmを測る。

口縁部には煤が付着している。6は土師器の碗。口径11.6cm、器高3.45cm、高台径6.7cmを測る。7は青磁碗。釉は灰オリーブ色を呈し、高台端部のみ掻き取る。8は肥前系陶磁で外面が青磁、内面が染付けである。高台は蛇ノ目凹形高台を成す。

SP12（第6図）

SK11と切り合う柱穴である。平面形は楕円形を呈し、掘り方中段の周縁部には瓦や石を配置し根固めする。長さ90cm、幅65cm、深さ40cm、柱痕跡は径30cmを測る。

出土遺物（第7図）9 ～ 11は平瓦。9は器壁は薄く1.2cm前後。凸面は縄目タタキ､凹面は布目が残る。灰色と呈する。10･11は凸面は斜格子タタキ後ナデ、凹面は布目が残る。橙色と呈する。他に底部回転糸切りの土師器が出土している。

SK14（第4図）

調査区東壁にかかる。平面形は楕円形を呈し、長さ110cm、深さ62cmを測る。遺物は底部ヘラ切り及び糸切りの土師器、白磁、瓦が出土している。

SK15（第6図）

調査区東に位置する。平面形は円形を呈し、径110cm前後、深さ57cmを測る。

出土遺物（第7図）12 ～ 14は白磁碗。他に底部回転糸切りの土師器、龍泉窯系青磁、瓦、銅製品が出土している。

SK16（第6図）

調査区北壁にかかる。平面形は楕円形を呈し、長さ122cm、深さ58cmを測る。

出土遺物（第7図）15 ～ 17は土師器の丸底坏。口径は15が16.0cm、16が15.2cmを測る。他に白磁、陶器、瓦等が出土している。

SK17（第4図）

SK1に切られる。平面形は楕円形か。長さ105cm程度。遺物は底部回転糸切りの土師器の細片が少量出土している。

SK18（第4図）

SK11を切る。平面形は楕円形か。深さ35cmを測る。遺物は底部回転糸切りの土師器小皿の細片が少量出土している。

５．小結

今回の第28次調査は遺跡の南部に位置する。調査面積が狭かったこともあり、確認した遺構は土坑9基、柱穴9基と少ない。時期については概ね11世紀後半～ 12世紀前半と考えられるSK16から近世に位置づけられるSK11までが存在し、遺物からは12世紀代に中心があるように思われる。特徴的な遺物としてSP12出土の平瓦10・11が挙げられる。橙色で凸面に太い斜格子タタキが施されるが、これらの瓦は隣接した47次調査C区のSK408等から大量に出土した瓦と同様の特徴を有しており、区画された複数の巴文を配した軒平瓦に伴うことが確認されている。これらの瓦が使用された建物は47次調査では確認されておらず、周辺に存在するものと思われる。

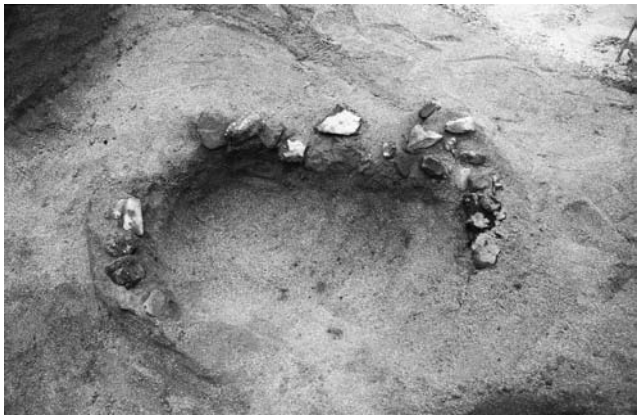
（1）第 28 次調査区全景（北から）

（2）南壁土層（北から）

（3）SK1（南から）

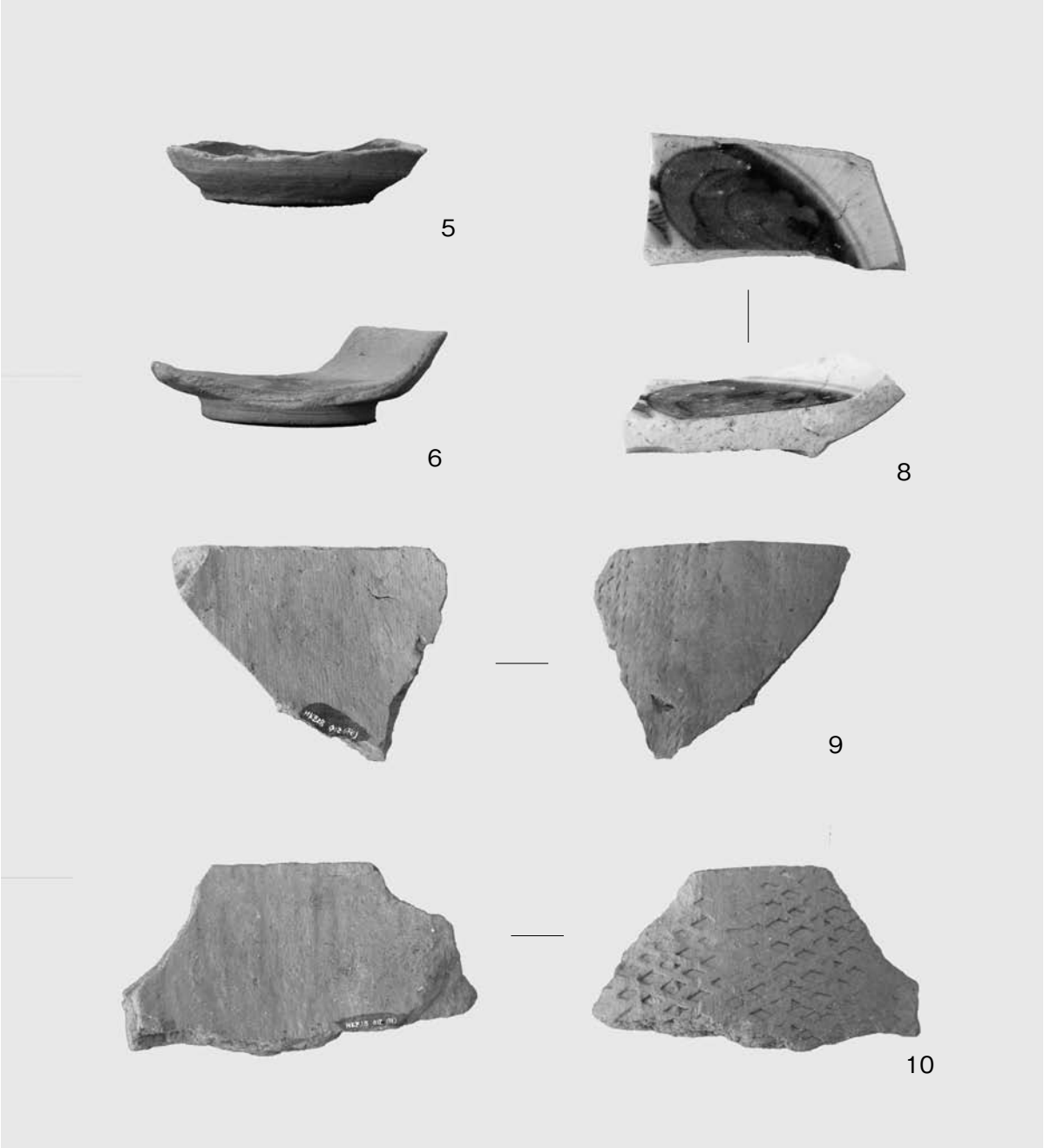
（4）SK11（北から）

図版2



（1）SP12（北から）

（2）SK16（北から）



（3）第 28 次調査出土遺物

Ⅲ．第33次調査

１．調査に至る経過

平成14年9月5日、宗教法人 恵光院 代表役員 高松照典氏より福岡市教育委員会文化財部埋蔵文化財課へ庫裡・納骨堂建築に伴う福岡市東区馬出5丁目502・503における埋蔵文化財の事前審査について依頼がなされた。これを受けた埋蔵文化財課では事業計画地が周知の埋蔵文化財包蔵地である箱崎遺跡に含まれることから、確認調査が必要であるとの判断がなされた。同年9月15日、確認調査を行い、土坑、柱穴等の遺構が確認された。この結果をもとに協議を重ねたが現状での設計変更は不可能との判断から箱崎第32次調査の終了を待って記録保存のための発掘調査を行うこととなった。

調査は第32次調査終了直後の平成14年9月24日から開始し、平成14年10月8日に終了した。

２．調査体制

(平成14年度)

調査主体　福岡市教育委員会

調査総括　埋蔵文化財課長　山崎純男

　　調査第2係長　田中壽夫

事前審査　事前審査係長　池崎譲二

　　主任文化財主事　米倉秀紀

　　事前審査係　大塚紀宜

調査庶務　文化財整備課管理係　御手洗清

調査担当　調査第2係　中村啓太郎

調査員　　高木誠　福田匡明（現 熊本県教育委員会）

発掘作業　井料国彦　小川秀雄　園田豊　徳永栄彦　吹春哲男　宮崎雅秀　井上ヨシ子

　　田中フキ子　光安晶子　上田龍児（現 大野城市教育委員会）　渡辺誠（現 高松市教育委員会）　田端名穂子　中村幸子　花田則子　安藤史郎　阿部純子　稲崎龍也

　　崎村雄介　永松弘恵　野田トヨ子　花田昌代　藤澤義一

(平成22年度)

福岡市教育委員会　文化財部　埋蔵文化財第2課

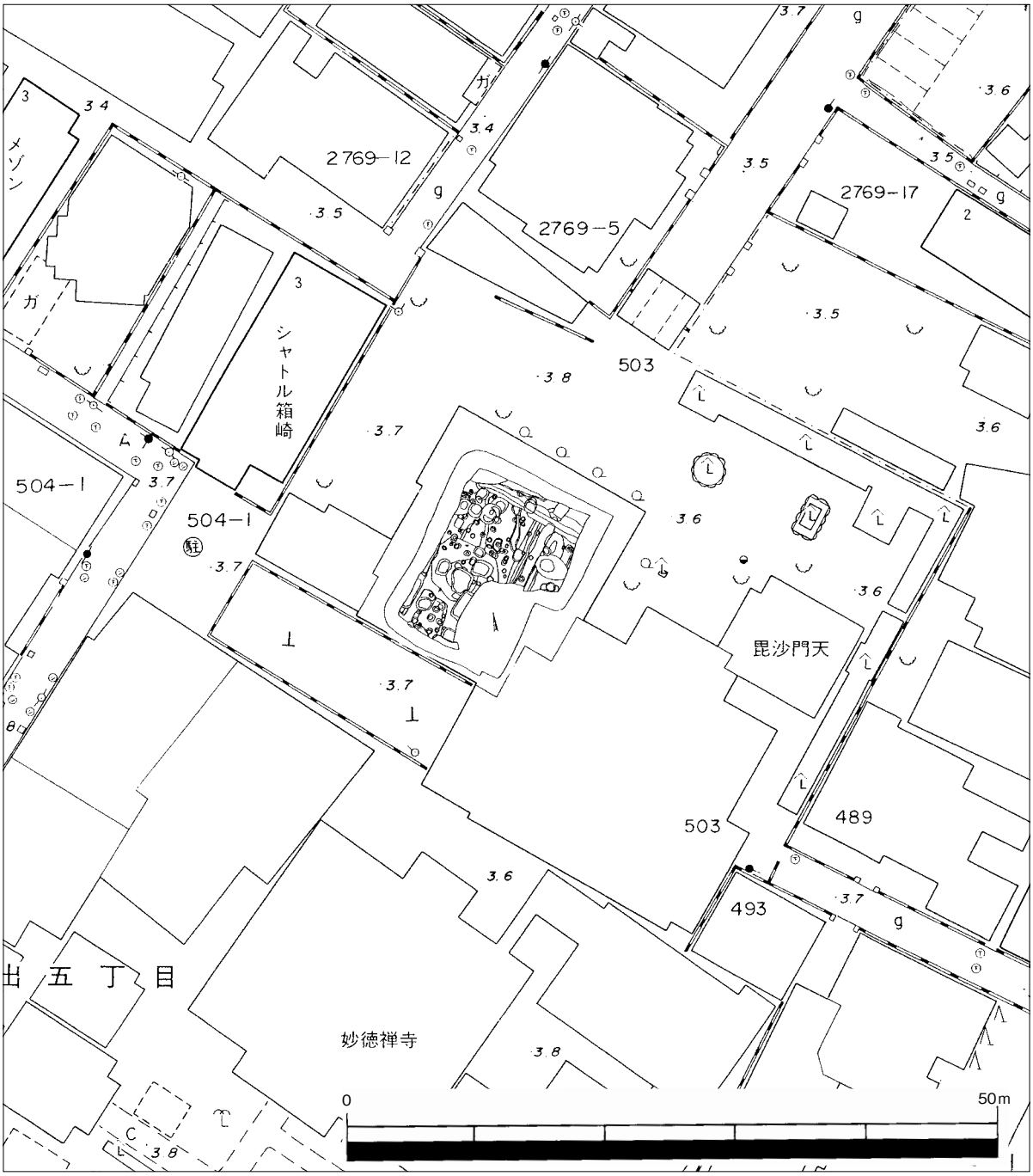
整理作業　林由紀子

３．調査の概要

第33次調査は東区馬出5丁目に所在する恵光院の庫裡・納骨堂建設に伴うものである。恵光院は筑前藩主黒田忠之を開基に寛永年間中頃に建立された筥崎社中の結縁寺である。

調査区は第2･8図に示した地点で、遺跡の南部に位置する。西側では第58次調査が行われている。現況は標高3.5m、調査面積は150㎡を測る。調査は平成14年9月24日から重機による表土剥ぎから開始した。調査区南部は攪乱が大きく、重機で掘削し、土置き場とした。その後人力による遺構検出、掘削、実測、写真撮影、遺物取り上げ等を行い、平成14年10月8日に終了した。

基本層序（第10図）は1．現代整地層　2．黒褐色砂質土　3．暗褐色砂質土　4．暗褐色砂質土　5．にぶい黄褐色砂　6．にぶい黄褐色砂　7．黄褐色砂（地山）となる。遺構は3～6層の各上面より掘り込まれているが、調査期間の都合や遺構確認が困難であったため、検出作業は5層中位から6層を中心に行った。



第８図　第 33 次調査区位置図（1/500）

検出遺構は井戸、土坑、溝、土壙墓、柱穴等である。柱穴は建物としてまとめきれていない。遺物は土師器、貿易陶磁器、瓦等を中心にコンテナ７箱出土した。

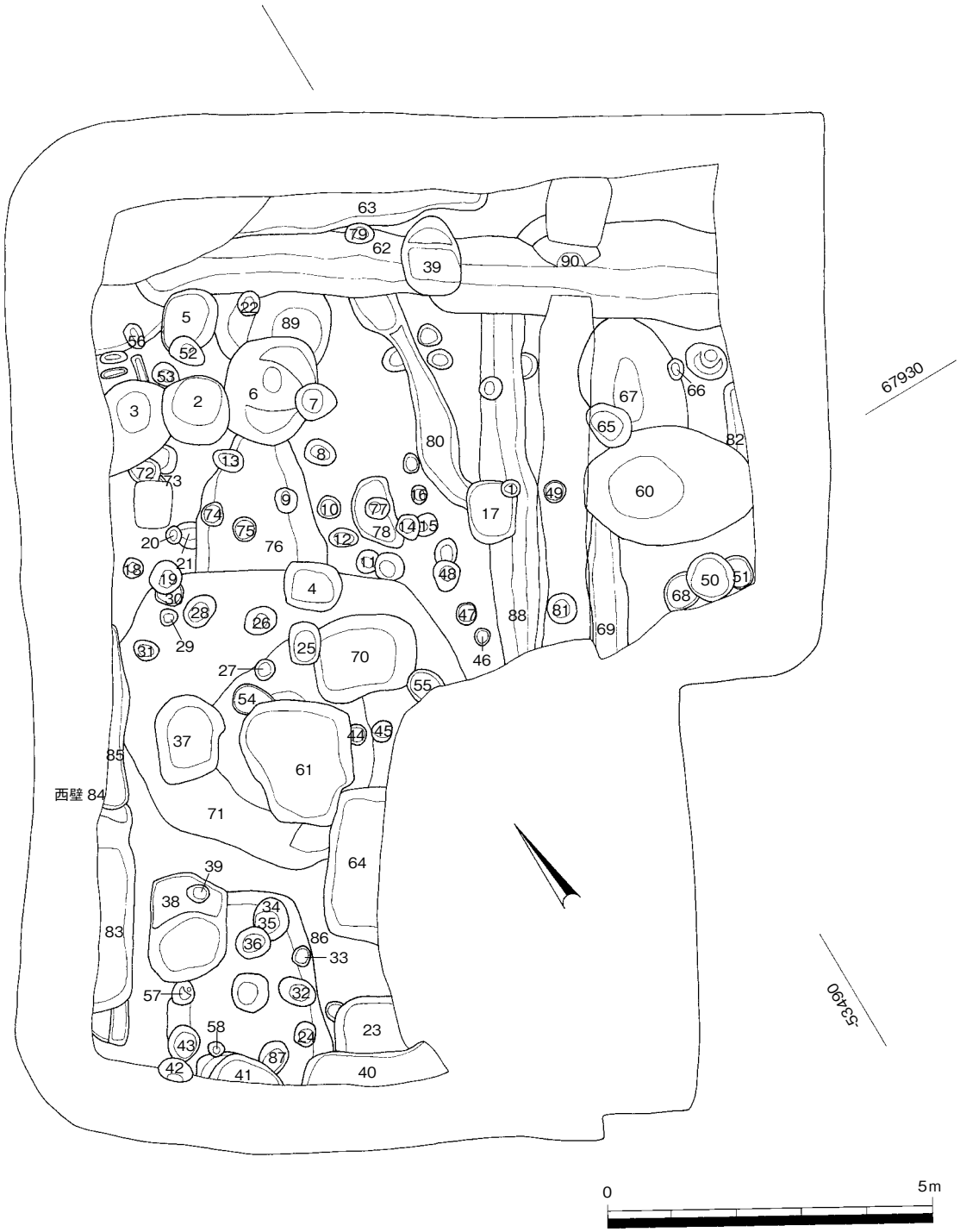
遺構番号は遺構の性格に関わらず通し番号とした。

４．調査の記録

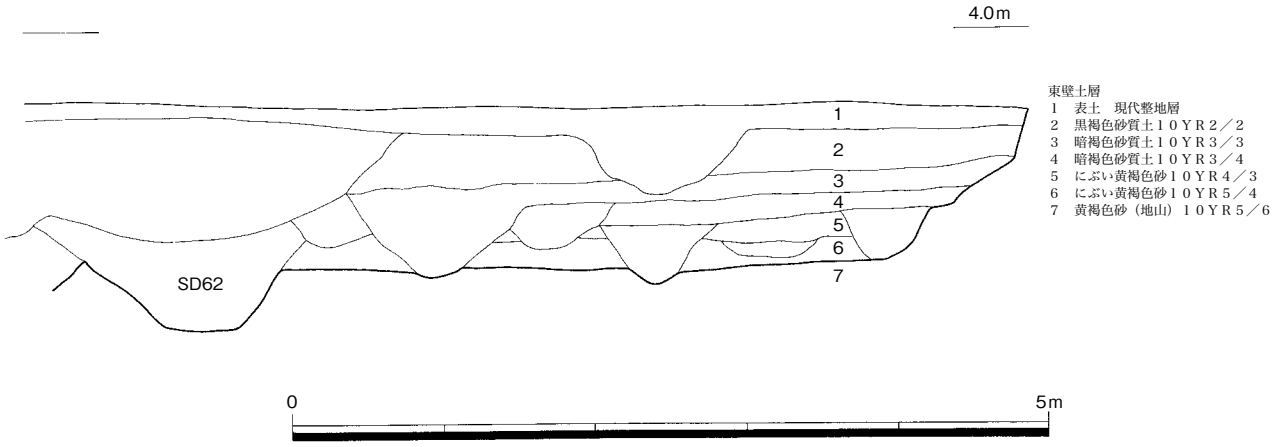
(1) 井戸（ＳＥ）

SE71（第11図）

調査区中央西寄りに位置する。掘方平面形は楕円形を呈し、 東西540cm前後、南北460cm前後を測る。標高1.85mで南側にテラス、標高1.6mで段を有し、中央に井筒をを据える。井筒は幅約



第９図　第 33 次調査遺構配置図（1/100）



第 10 図　第 33 次調査土層実測図（1/50）

10cmの板材を組み合わせた径75cmの桶が用いられる。最下部は湧水（標高約0.5m）により完掘できなかった。13世紀中～ 14世紀以降と考えられる。

出土遺物（第12図）1 ～ 9は土師器の小皿で口径8.0cm ～ 9.6cm、器高0.9cm ～ 1.3cmを測る。底部は回転糸切りで、4・6以外は板状圧痕を有する。10・11は土師器の坏で10は口径15.2cm。11は口径14.0cm、器高2.6cmを測り、底部は回転糸切り。12・13は白磁。12は器壁が薄く、見込みの釉を輪状に掻き取る。13は合子で口径3.8cm、器高1.3cmを測る。14は龍泉窯系青磁坏Ⅲ類。15は同安窯系青磁皿Ⅰ-Ⅰb類。口径10.0cmを測る。16は陶器の壺。釉はオリーブ褐色を呈する。17は陶器の皿。釉はオリーブ褐色を呈する。18は滑石製石鍋の再用品。周縁部は錐状工具痕が残る。19は滑石製石鍋。再用素材とするため切り取られている。20は円盤状土製品。周縁部を打ち欠いて整形している。21は銅銭で「咸平元寳」（初鋳 998年）。

(2) 土坑（ＳＫ）

SK2（第13図）

調査区北に位置し、SK3を切る。平面形は円形を呈し、径107cm、深さ45cmを測る。

出土遺物（第14図）22･23は小皿でそれぞれ口径9.5cm・9.2cm、器高1.2cm・1.15cmを測る。底部は回転糸切りで、板状圧痕を有する。24・25は龍泉窯系青磁碗。24はⅠ-2a`類で口径16.0cmを測る。25はⅠ-2類。26は同安窯系青磁碗Ⅰ-1c類。他に陶器、鉄製品が出土している。

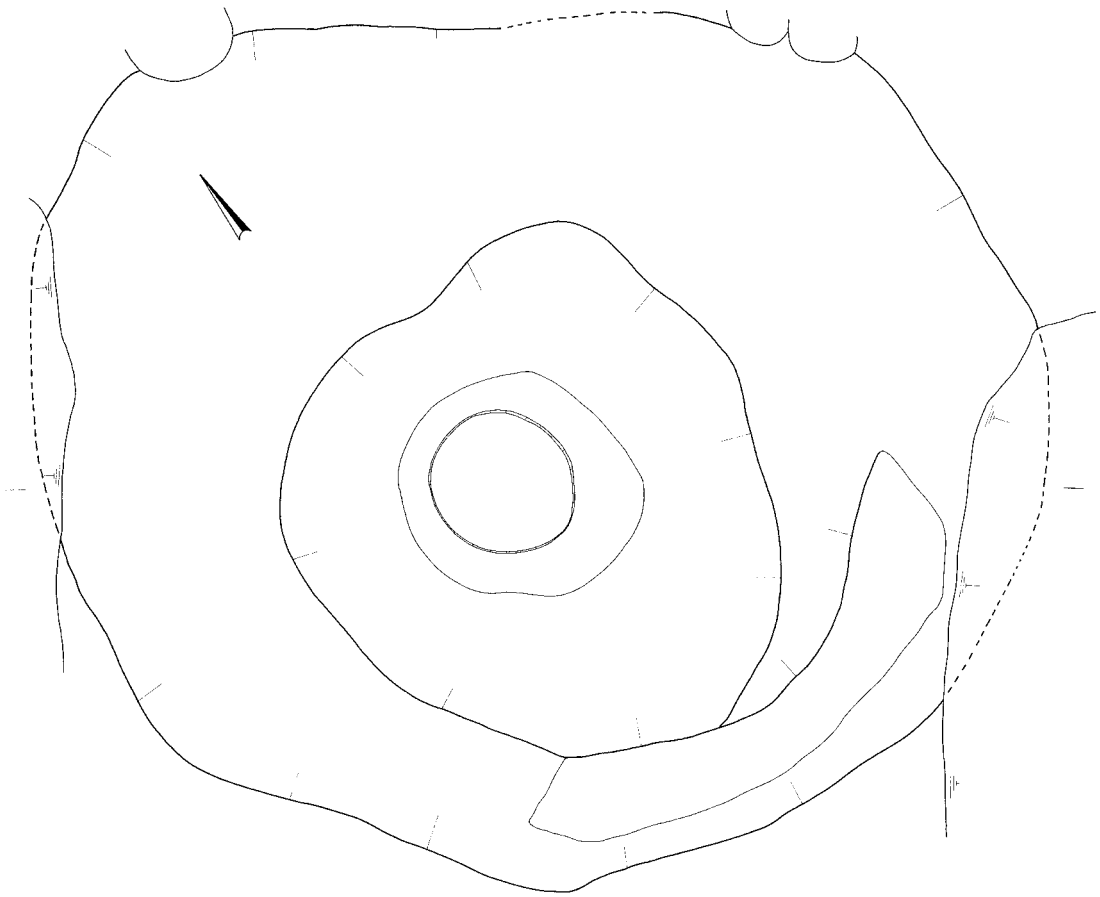
SK3（第13図）

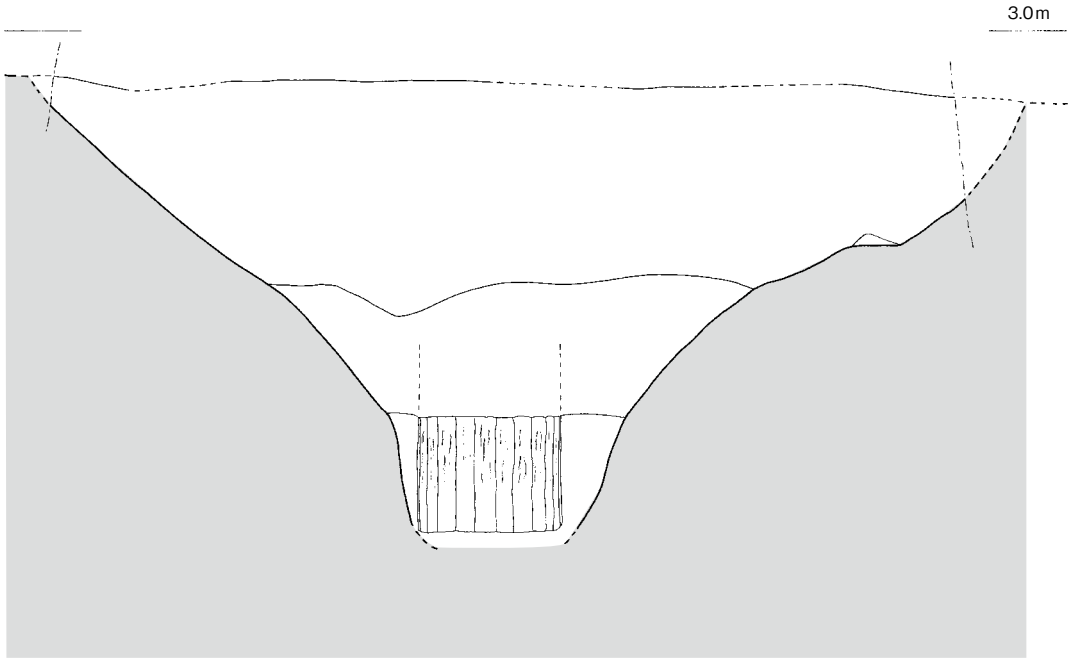
調査区北に位置し、SK2に切られる。平面形は楕円形であろう。幅125cm、深さ60cmを測る。

出土遺物（第14図）27は白磁碗で口径15.2cmを測る。釉は灰オリーブ色を呈する。28は土師器の鍋で外面口縁下に煤が付着する。29は土師器の鉢。他に底部ヘラ切り及び糸切りの土師器、瓦器片が出土している。

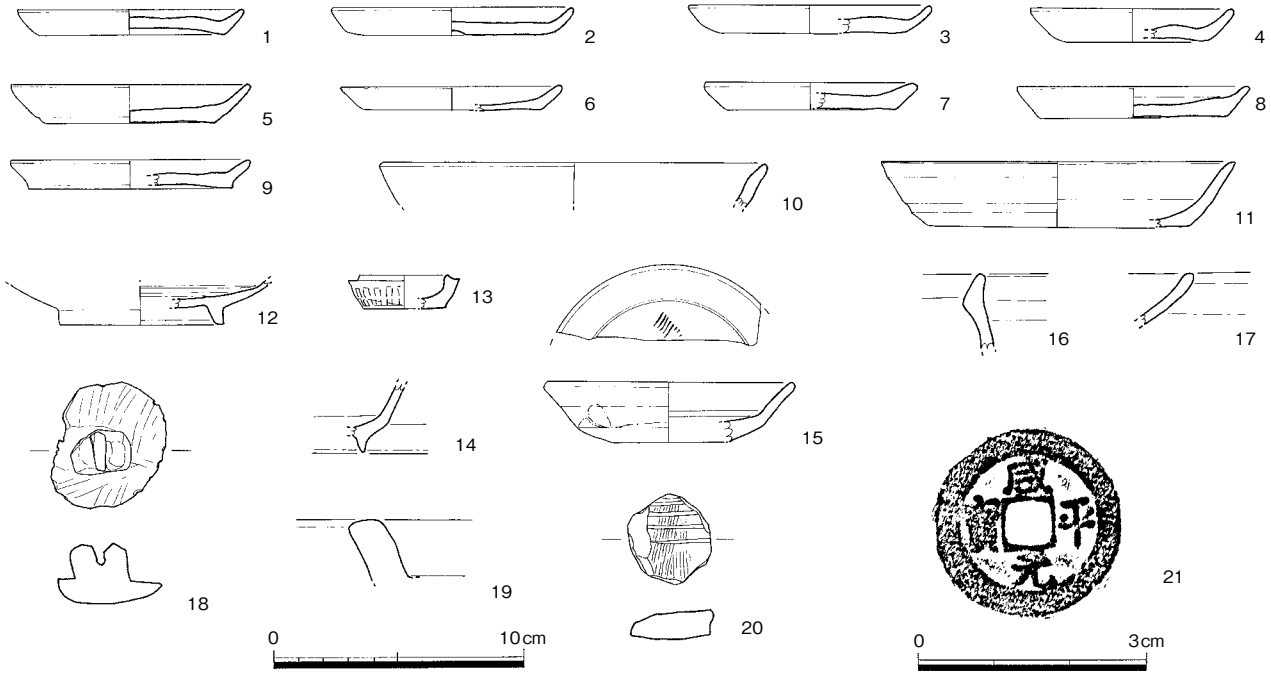
SK4（第13図）

調査区中央に位置し、SE71を切る。平面形は隅丸長方形を呈し、長さ90cm、幅75cm、深さ24cmを測る。遺物は白磁、龍泉窯系青磁、瓦器、底部回転糸切りの土師器の細片が出土している。





第 11 図　SE71 実測図（1/40）



第 12 図　SE71 出土遺物実測図（1/1・1/3）

SK5（第13図）

調査区北に位置する。平面形は楕円形を呈し、長さ100cm程度、幅84cm、深さ60cmを測る。

出土遺物（第14図）30は土師器の小皿。口径9.0cm前後、器高1.3cmを測る。底部は回転糸切りで、板状圧痕を有する。やや歪が大きい。31～33は土師器の坏。口径14.2cm～15.4cm、器高2.7～3.3cmを測る。底部は回転糸切りで、板状圧痕を有する。他に白磁、龍泉窯系青磁等の細片が出土している。

SK6（第13図）

調査区北に位置し、SK2に切られる。平面形は楕円形を呈し、両側にテラスを有する。長さ175cm、幅138cm、深さ52cmを測る。

出土遺物（第14図）34は平瓦で凸面は斜格子タタキ後ナデ、凹面は布目が残る。35～37は釘。38は石球で被熱痕が残る。他に白磁、龍泉窯系青磁等の細片が出土している。

SK23（第13図）

調査区南に位置し、SK40、攪乱に切られる。深さ23cmを測る。遺物は白磁と底部回転糸切りの土師器の細片が出土している。

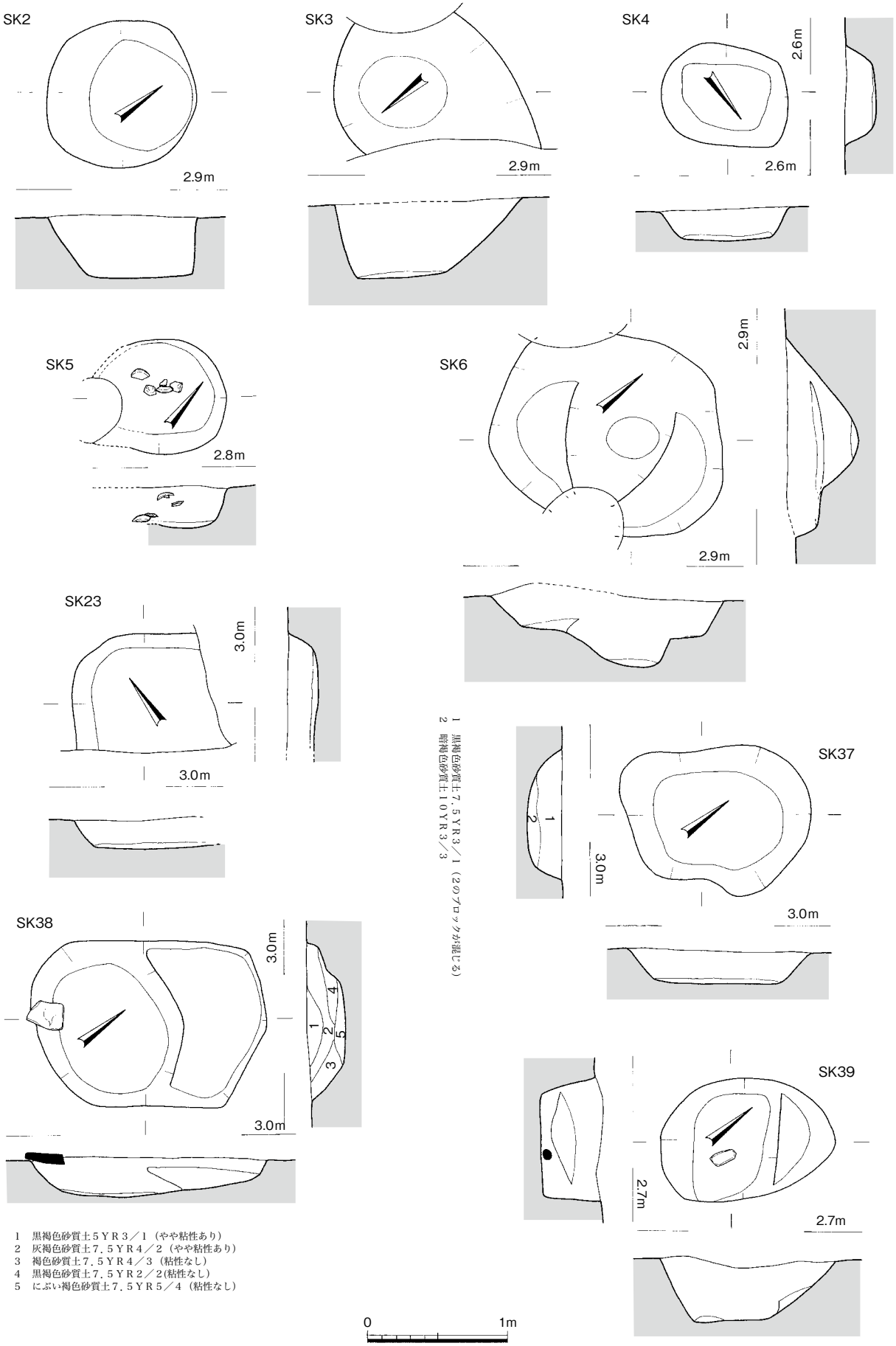
SK37（第13図）

調査区中央に位置し、SE71を切る。平面形は隅丸長方形を呈し、長さ131cm、幅105cm、深さ24cmを測る。遺物は白磁、龍泉窯系及び同安窯系青磁、底部回転糸切りの土師器の細片等が出土している。

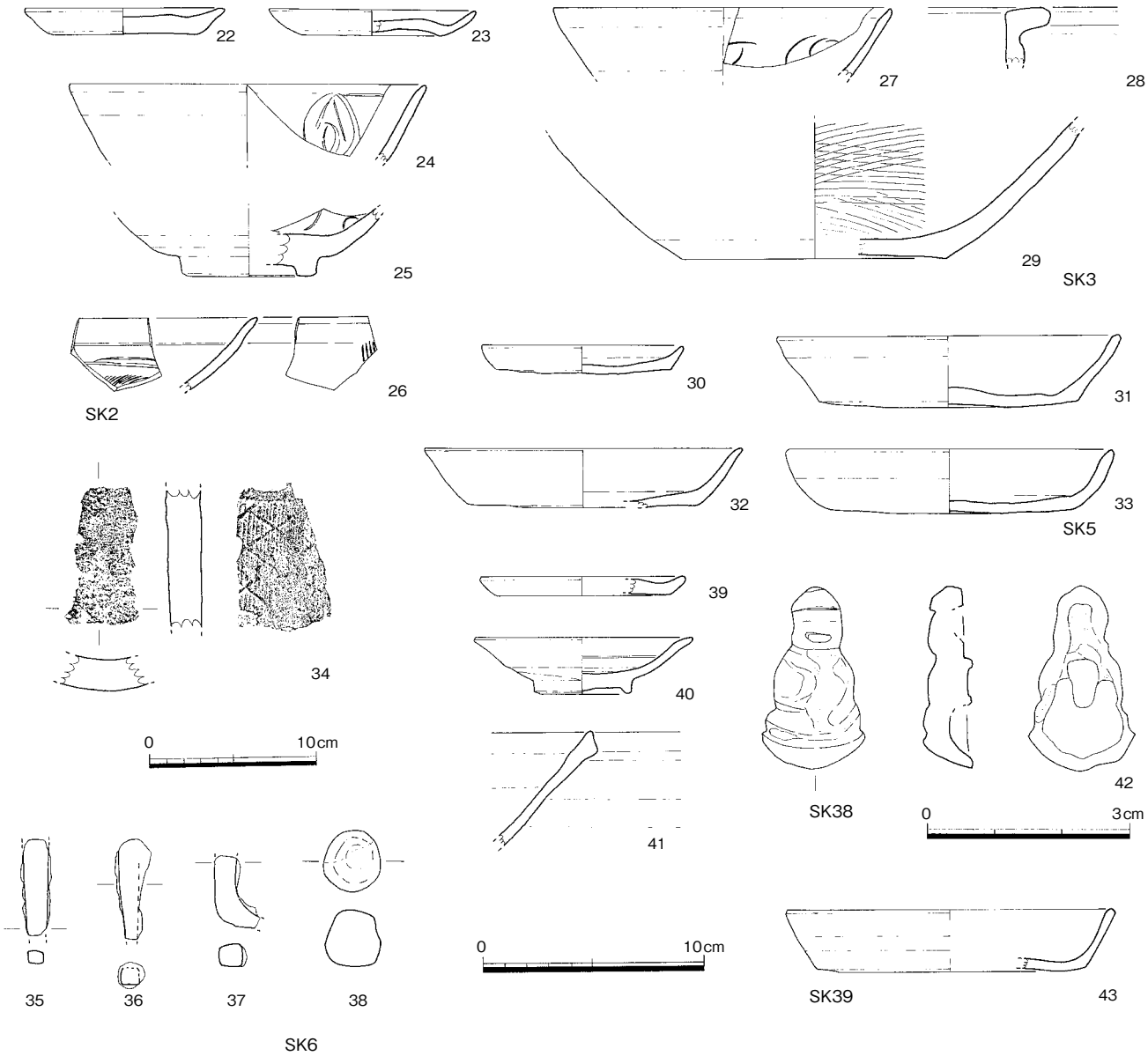
SK38（第13図）

調査区南西に位置する。平面形はやや不整な隅丸長方形を呈し、北側にテラスを有する。長さ166cm、幅118cm、深さ29cmを測る。

出土遺物（第14図）39は土師器の小皿。口径9.2cm～9.4cm、器高1.1cmを測る。底部は回転糸切りで、板状圧痕を有する。やや歪が大きい。40は白磁皿Ⅲ-1類で口径9.8cm、器高2.6cmを測る。釉は灰白色を呈し、見込みを輪状に掻き取る。41は須恵質の鉢。42は青銅製の掛仏である。全長2.7cm、幅1.5cm



第13図　SK2・3・4・5・6・23・37・38・39 実測図（1/40）



第 14 図　SK2・3・5・6・38・39 出土遺物実測図（1/1・1/3・1/4）

を測る。多少の風化が認められ、前面には付着物が見られる。鋳造時のものであろうか。他に龍泉窯系青磁が出土している。

SK39（第13図）

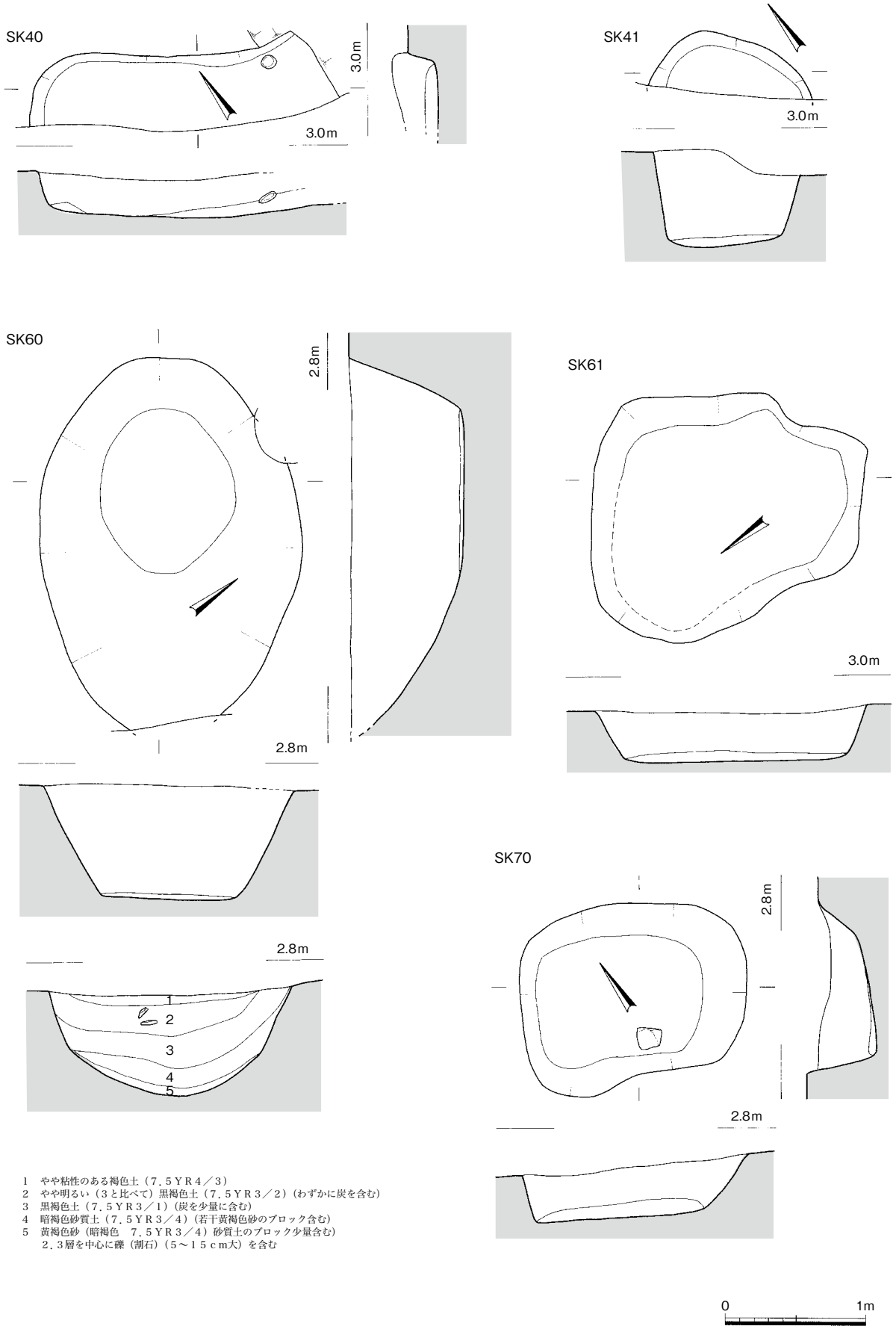
調査区北に位置し、SD62を切る。平面形はやや不整な楕円形を呈し、長さ120cm、幅90cm、深さ41cmを測る。

出土遺物（第14図）43は土師器の坏で口径14.6cm、器高2.8cmを測る。底部は回転糸切りである。他に白磁、龍泉窯系青磁等の細片が出土している。

SK40（第15図）

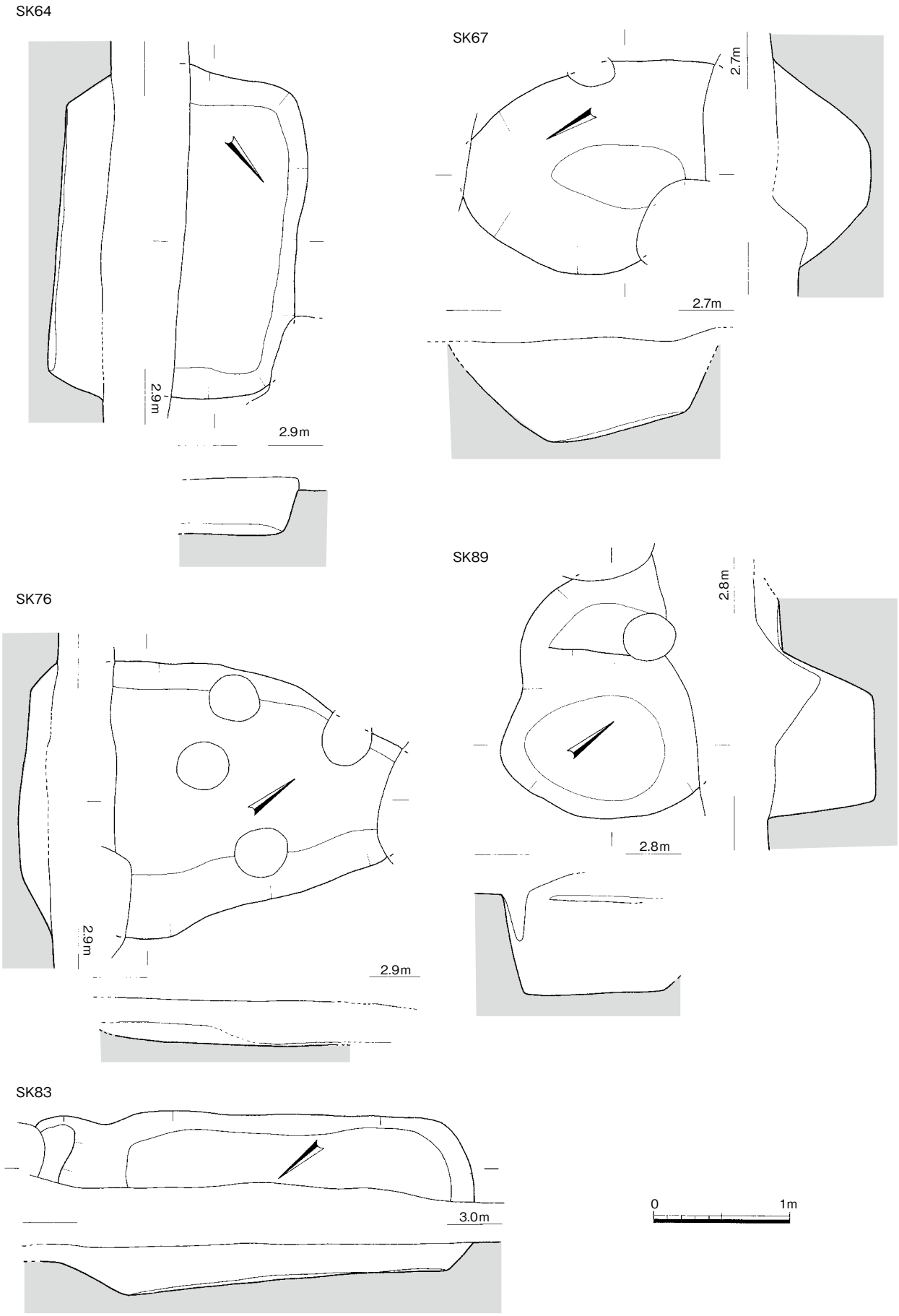
調査区南端に位置し、南側は調査区外に延び、東側は撹乱に切られる。深さ21cmを測る。

出土遺物(第17図)44は土師器の小皿で口径9.2cm～9.4cm、器高1.3cmを測る。底部は回転糸切りで、板状圧痕を有する。やや歪が大きい。

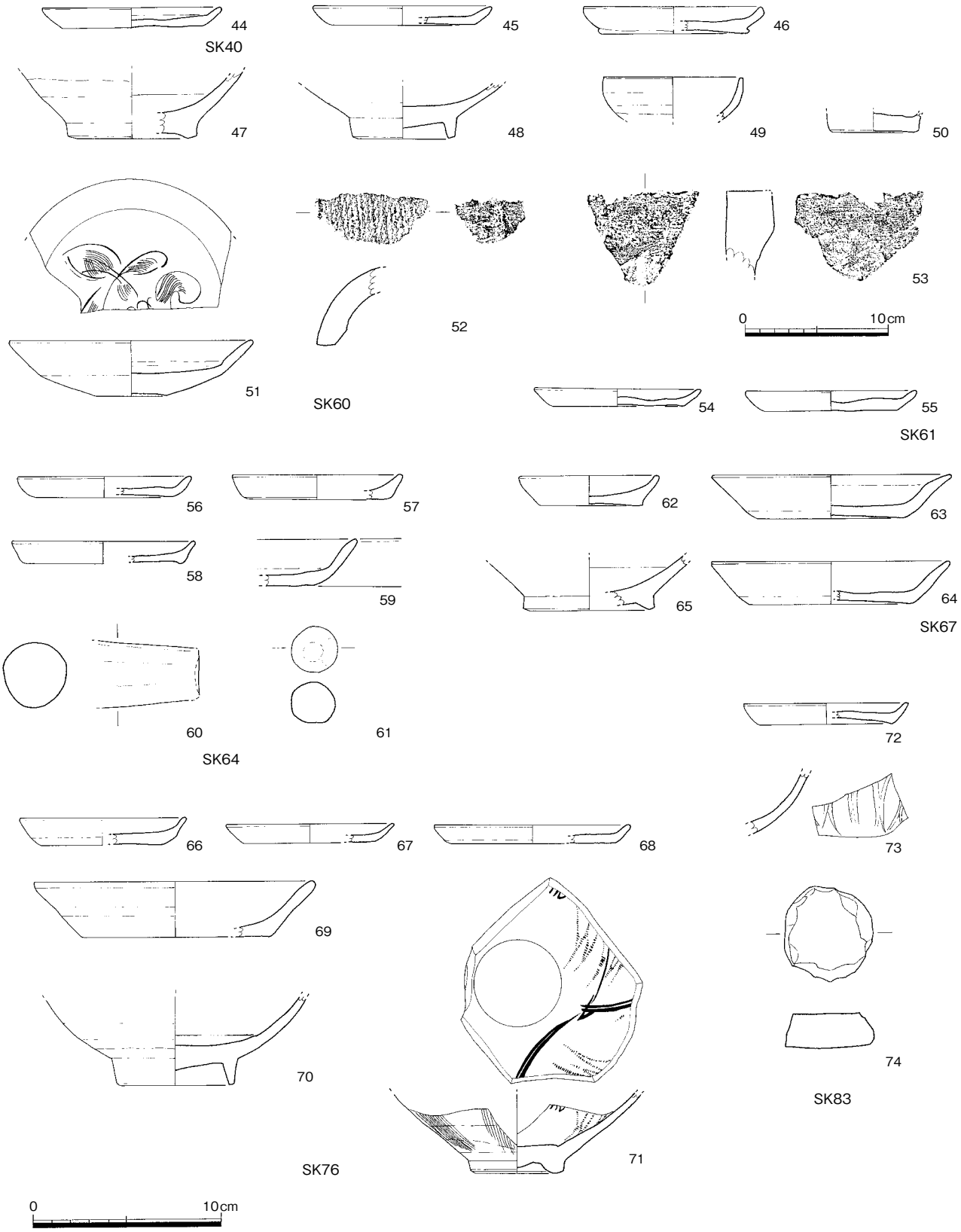


1　やや粘性のある褐色土（7．5ＹＲ４／３）
2　やや明るい（３と比べて）黒褐色土（7．5ＹＲ３／２）（わずかに炭を含む）
3　黒褐色土（7．5ＹＲ３／１）（炭を少量に含む）
4　暗褐色砂質土（7．5ＹＲ３／４）（若干黄褐色砂のブロック含む）
5　黄褐色砂（暗褐色　7．5ＹＲ３／４）砂質土のブロック少量含む）
　２．３層を中心に礫（割石）（５～１５ｃｍ大）を含む

第 15 図　SK40・41・60・61・70 実測図（1/40）



第 16 図　SK64・67・76・83・89 実測図（1/40）



第 17 図　SK40・60・61・64・67・76・83 出土遺物実測図（1/3・1/4）

SK41（第15図）

調査区南端に位置し、南側は調査区外に延びる。平面形は円形であろうか。幅115cm、深さ59cmを測る。遺物は白磁、龍泉窯系青磁、底部回転糸切りの土師器の細片等が出土している。

SK60（第15図）

調査区東に位置する。平面形は楕円形を呈し、長さ270cm程度、幅184cm、深さ82cmを測る。

出土遺物（第17図）45・46は土師器の小皿で口径9.4cm、器高0.95cm ～ 1.4cmを測る。底部は回転糸切りで、45は板状圧痕を有する。47～49は白磁。47は碗Ⅳ類。48は碗Ⅴ類。49は小碗で口径7.2cmを測る。釉は白色を呈し、体部外面下半は施釉されない。50は陶器の壺。外底は露胎、内底は施釉され、灰黄褐色を呈する。51は龍泉窯系青磁皿Ⅰ-1c類で口径12.8cm、器高2.9cmを測る。52は丸瓦で凸面は縄目タタキ、凹面は布目が残る。53は塼。

SK61（第15図）

調査区中央に位置し、SE71を切る。平面形は不整形で、長さ220cm、幅175cm、深さ36cmを測る。

出土遺物（第17図）54･55は土師器の小皿でそれぞれ口径8.8cm･9.0cm、器高0.9cm･1.1cmを測る。底部は回転糸切りで、板状圧痕を有する。他に白磁、青磁の細片等が出土している。

SK64（第16図）

SK61の南に位置し、東側を攪乱に切られる。平面形は長方形であろう。長さ242cm程度、深さ56cmを測る。

出土遺物（第17図）56 ～ 58は土師器の小皿で口径9.0cm ～ 9.8cm、器高1.1cm ～ 1.3cmを測る。底部は回転糸切りで、56・58は板状圧痕を有する。59は土師器の坏である。底部は回転糸切りで、板状圧痕を有する。60は土師器の把手か。61は石球。砂岩質で研磨調整を施す。他に瓦、口禿げの白磁の細片等が出土している。

SK67（第16図）

調査区東に位置しSK60に切られる。平面形は楕円形を呈し、幅154cm、深さ75cmを測る。

出土遺物（第17図）62は土師器の小皿で口径7.8cm、器高1.8cmを測る。底部は回転糸切り。63・64は土師器の坏でそれぞれ口径12.6cm・12.4cm、器高2.3cmを測る。底部は回転糸切り。65は白磁碗Ⅳ類。釉は灰白色を呈する。他に龍泉窯系青磁、鉄製品等が出土している。

SK70（第15図）

調査区中央に位置し、SE71を切る。平面形はやや不整な隅丸長方形を呈し、長さ160cm、幅122cm、深さ47cmを測る。遺物は底部回転糸切りの土師器、龍泉窯系青磁、陶器、滑石、獣骨等が出土している。

SK76（第16図）

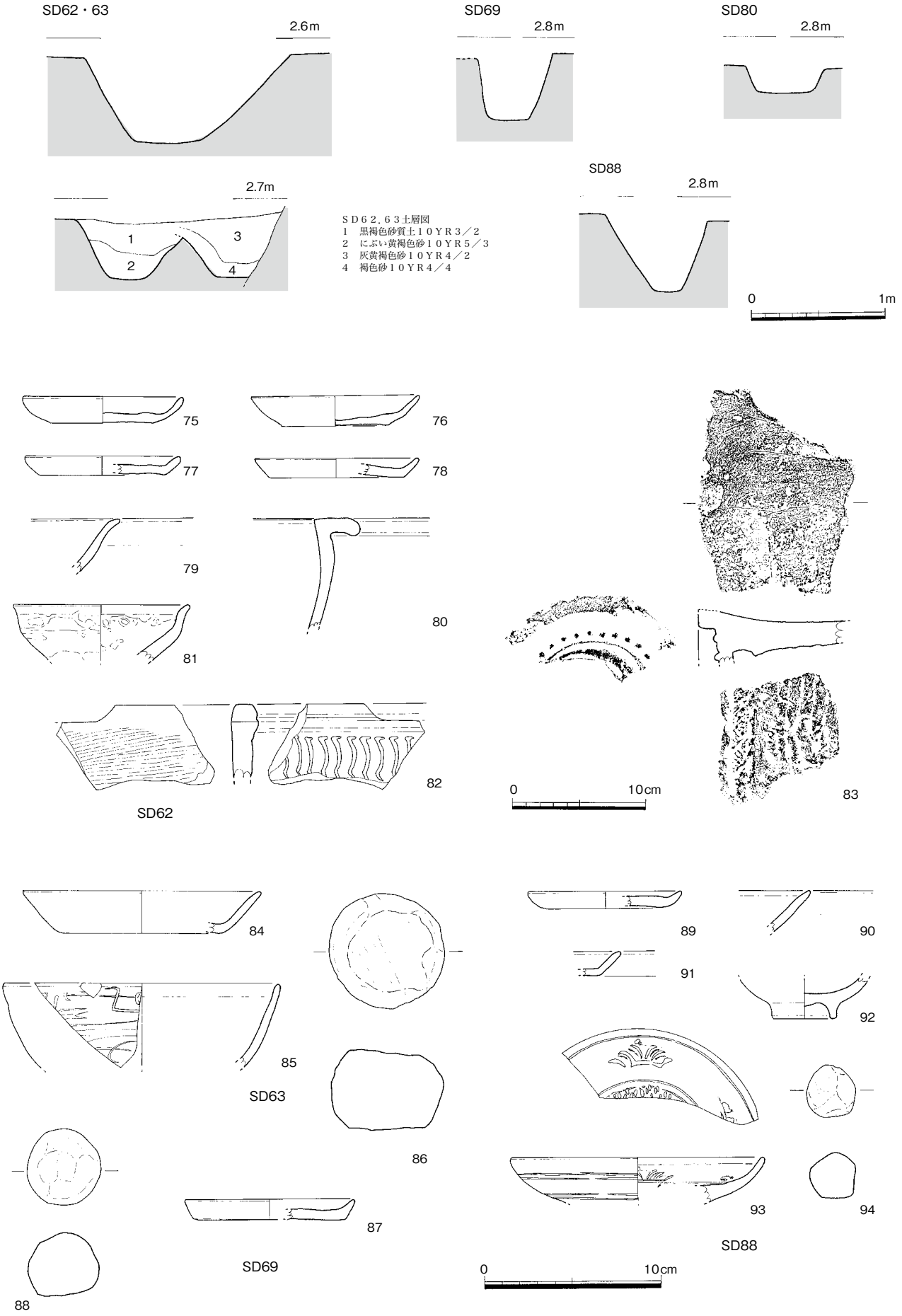
調査区北に位置しSE71に切られる。平面形は不整形を呈し、幅205cm、深さ35cmを測る。

出土遺物（第17図）66 ～ 68は土師器の小皿で口径8.8cm ～ 10.4cm、器高1.0cm ～ 1.4cmを測る。底部は回転糸切りで68は板状圧痕を有する。69は土師器の坏で、口径14.4cm、器高2.95cmを測る。底部は回転糸切りで、板状圧痕を有する。70は白磁碗Ⅴ類である。釉は灰白色を呈する。71は同安窯系青磁碗Ⅰ-Ⅰb類である。他に滑石、鉄製品が出土している。

SK83（第16図）

調査南西に位置し、西側は調査区外に延びる。平面形は長方形か。北側にテラスを有する。長さ305cm、深さ27cmを測る。

出土遺物（第17図）72は土師器の小皿で口径8.6cm、器高1.1cmを測る。底部は回転糸切り。73は



第18図　SD62・63・69・80・88実測図（1/40）及びSD62・63・69・88出土遺物実測図（1/3・1/4）

龍泉窯系青磁碗で外面に連弁を施す。74は瓦玉。周縁部を打ち欠いて整形する。

SK89（第16図）

調査区北に位置しSD62に切られる。平面形はやや不整な楕円形を呈し、テラスを有する。長さ180cm程度、幅120cm以上、深さ85cmを測る。土師器、瓦器の細片が少量出土している。

（3）溝状遺構（ＳＤ）

SD62（第18図）

調査区北に位置し、SD63に切られる。断面形は逆台形を呈し、幅100cm、深さ64cmを測る。

出土遺物（第18図）75 ～ 78は土師器の小皿で口径8.8cm ～ 9.4cm、器高1.1cm ～ 1.7cmを測る。底部は回転糸切り。79は白磁碗IX類。口縁部の釉は掻き取り口禿げとする。80は土師器の鍋で外面に煤が付着している。81は天目碗。口径10.0cmを測る。釉は厚く施され黒褐色を呈する。82は土師質の火鉢か。外面はヘラ状工具によるＳ字状の施文、内面は刷毛目を施す。83は巴文の軒丸瓦。凸面は風化が著しいがナデを施し、凹面は吊り紐痕と布目が見られる。灰色を呈する。他に釘が出土している。

SD63（第18図）

調査区北端に位置しSD62を切る。北側は調査区外に延びる。深さ41cmを測る。

出土遺物（第18図）84は土師器の坏で口径13.2cm、器高2.3cmを測る。底部は回転糸切り。85は龍泉窯系青磁。口径15.4cmを測る。外面は雷文を施し、釉はオリーブ灰色を呈する。86は石球。周縁部を打ち欠いて整形し、平坦面は研磨を施す。他に陶器、瓦等が出土している。15世紀代と考えられる。

SD69（第18図）

調査区東に位置する。断面形は逆台形を呈し、幅60cm、深さ26cmを測る。

出土遺物（第18図）87は土師器の小皿で口径9.6cm、器高1.15cmを測る。底部は回転糸切りで板状圧痕を有する。88は砂岩質の石球。他に白磁、龍泉窯系青磁が出土している。

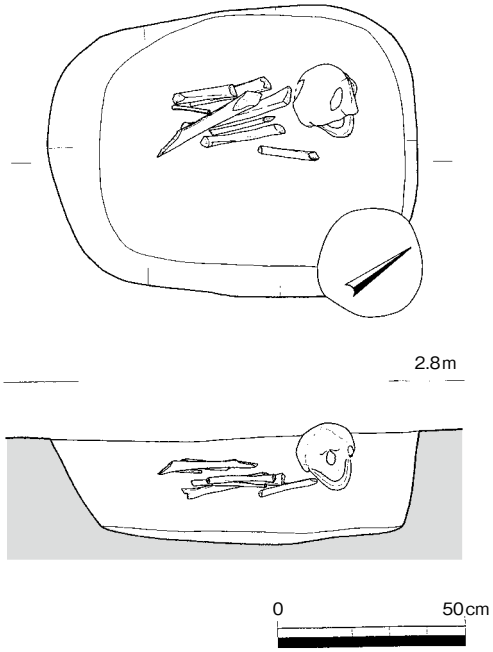
SD80（第18図）

調査区北に位置しSD62に切られる。断面形は逆台形を呈し、幅55cm、深さ48cmを測る。遺物は土師器、白磁が出土している。

SD88（第18図）

調査区中央やや東に位置しする。断面形は逆台形を呈し、幅95cm、深さ57cmを測る。

出土遺物（第18図）89は土師器の小皿で口径8.6cm、器高1.0cmを測る。底部は回転糸切りで板状圧痕を有する。90・91は白磁。90は碗IX類。91は皿IX類。口縁部の釉は掻き取り口禿げとする。92は龍泉窯系青磁小碗Ⅲ類で釉はオリーブ色を呈し、高台端部を掻き取る。93は高麗青磁皿。口径14.2cmを測る。オリーブ灰色を呈する。94は砂岩質の石球。14世紀代の溝と考えられる。



第 19 図　SK17 実測図（1/20）

（4）埋葬遺構（ＳＫ）

SK17（第19図）

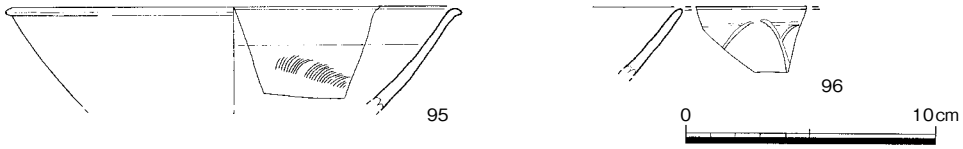
調査区中央～東に位置する土壙墓である。SD80・88を切り、北東隅をSP1に切られる。平面形は隅丸長方形を呈し、長さ98cm、幅77cm、深さ28cmを測る。

出土人骨は熟年の男性と推定され、遺存状況は悪い。（Ⅲ－6参照）頭位方向を北にとり、N－35.5°－Eを測る。西を向き、墓壙の西寄りに側臥屈葬される。

出土遺物は明確に副葬されたと認定できる遺物は無い。埋土から底部回転糸切りの土師器、白磁の細片が少量出土している。時期については遺物が少量のため確定できないが、SD88を切ることから14世紀代以降と考えられる。

（5）その他の出土遺物（第20図）

その他の遺構から出土した遺物の一部を掲載する。95、96はいずれもSP19出土。95は白磁碗Ⅴ-4ｂ類。口径18.0cmを測る。口縁端部は嘴状を成し、内面に櫛目文を施す。釉は灰白色を呈する。96は龍泉窯系青磁碗Ⅱ-ａ類。外面に連弁文を施し、釉はオリーブ黄色を呈する。



第 20 図　その他の出土遺物実測図（1/3）

次数	遺構番号	種別	人骨	性別	埋葬形態	副葬品	時期	次数	遺構番号	種別	人骨	性別	埋葬形態	副葬品	時期
1	1号中世墓	木棺墓	有	不明	不明	不明	鎌倉後半?	26	SR005	木棺墓	有	不明	不明	白磁皿Ⅷ-2b類　龍泉碗	13C前半
1	SK30	木棺墓	無	不明	不明	龍泉碗Ⅱb類　土師器皿（糸）	13C後半	27	SK023	木棺墓	有	不明	屈葬	刀子	
1	SK203	土壙墓	有	不明	不明	同安碗	13C	27	SK033	木棺墓	無	不明	不明	土師器坏1　皿4	13C?
5	SK067	木棺墓	有	不明	仰臥伸展葬	土師器坏	中世後期	27	SK163	土壙墓	有	不明	伸展葬	龍泉碗Ⅱb類　土師器皿（糸）	13C前半
10	SX200	集積	有（複数）	一体は女性		無	12C前半	27	SK2028	木棺墓	無	不明	伸展葬	龍泉碗Ⅱb類　白磁皿	13C前後
12	SK001	木棺墓	無	不明	不明	白磁碗Ⅳ-1a類 皿Ⅳ-1b類 土師器坏・皿　瓦器皿	12C中頃	27	SK2069	木棺墓	無	不明	不明	無	12C後半
20	SX0020	土壙墓	有	女性	仰臥屈葬	無		27	SK2120	木棺墓	無	不明	伸展葬?	龍泉碗Ⅱb類	13C中~後半
21	SX153	木棺墓	有	不明	仰臥?	鏡（鴛鴦五花鏡）白磁碗Ⅳ-4a類 土師器小皿(糸)	12C中頃	30	SX25	木棺墓	有	不明	伸展葬?	龍泉碗Ⅱb類　小碗　白磁皿	13C中~後半
21	SX154	土壙墓	有	女性	仰臥屈葬	鏡　銅銭　白磁碗Ⅳ-1a類　Ⅴ-2a類	12C中頃	32	SK273	pit	有	女性	頭部のみ	無	13C以降?
21	SX165	土壙墓	有	不明	仰臥屈葬	短刀　毛抜き　不明鉄製品　ガラス小玉　青白磁合子　白磁碗Ⅳ-1a類　Ⅴ-2a類　白磁皿Ⅲ-1類	12C中頃	33	SK17	土壙墓	有	男性	仰臥屈葬	無	14C代以降
21	SX456	木棺墓	無	無	伸展葬?	鏡(草花蝶双鳥文鏡)　青銅製容器　銅銭　龍泉碗Ⅰ-3類　土師器坏・皿(糸)　青白磁小壺	12C中頃~後半	40	SX01	土壙墓	無	女性?	不明	鏡（双鳥文鏡）　櫛　白磁碗・皿　龍泉碗Ⅲ-2c	13C中~14C初
21	SX457	木棺墓	有	男性	仰臥伸展葬	土師器坏(糸)・皿(ヘラ・糸)	12C中頃	40	SX02	土壙墓	無	不明	不明	龍泉碗Ⅱb類・Ⅱa　土師器坏・小皿	13C前後~前半
24	SX07	木棺墓	有	不明（未分析）	仰臥屈葬	同安碗　白磁皿　土師器小皿(糸)	12C中頃	40	SX87	土壙墓	無	不明	不明	土師器坏	12C後半~13C前半
26	SR044	木棺墓	有	女性	側臥屈葬	不明	13C?	41	SK34	土壙墓	有	女性	仰臥屈葬	無	12C中頃以降?
26	SX45	土壙墓	有	男性	側臥屈葬	無	13C?	41	SK35	木棺墓	有	男性	側臥屈葬	土師器坏（糸1）皿(糸4)	12C後半
26	SX061	土壙墓	有	不明	側臥屈葬	土師器小皿（ヘラ・糸）	13C後半	41	SK63	木棺墓	有	男性	側臥屈葬	短刀　龍泉碗Ⅰ-2類・皿	12C後半
26	SR066	木棺墓	有	男性	仰臥伸展葬	刀子　火打ち金　陶製硯　碁石　龍泉碗Ⅰ-2b類　土師器小皿(ヘラ・糸)	12C後半	46	SX5	木棺墓	有	不明（未分析）	側臥屈葬	龍泉碗Ⅱb類　土師器小皿（糸）	13C前後~前半
26	SX81	土壙墓	有	不明	不明	土師器坏(糸)　碗	14C前半	49	SX2（22区）	土壙墓	有	不明（未分析）	仰臥伸展葬	鉄刀	12C中頃以降
26	SX101	土壙墓	有	男性	仰臥屈葬	無	13C?	49	SX2（24区）	土壙墓	有	不明（未分析）		無	
26	SX102	土壙墓	有	男性	仰臥屈葬	無	13C?								

表１　箱崎遺跡埋葬関連遺構

５．小結

今回の調査は寛永年間に建立された恵光院内で行われた。検出した遺構は井戸、土坑、溝状遺構、埋葬遺構、柱穴等である。時期は概ね12世紀～ 15世紀、遺物は近世まで確認される。恵光院建立以降のものについては廃棄土坑以外ほとんど確認されていない。

以下、各遺構について簡単に見て終わりとしたい。

井戸はSE71の1基のみが確認されたが、これが単独で存在するのか、建物の裏側に連続して配置されているものかは調査面積の関係から現時点ではわからない。

土坑は38基確認した。主軸方向は概ね溝状遺構に並行あるいは直交するものが多いが、その配置について規則性は見出せなかった。

溝状遺構は5条確認した。SD63及びこれに直交するSD88等については他の調査地点と同様に現在の地割りに類似した方向で掘削される。柱穴については建物としてまとめられないが、恵光院建立以前の本調査区は遺跡の南側で形成された集落の一部であろうか。

埋葬遺構は土壙墓SK17が1基のみ確認された。前述のとおり、これについては副葬品が無く明確な時期が決め難いが、SD88との切り合いから14世紀代以降が想定される。箱崎遺跡においては多数の埋葬遺構、特に木棺墓、土壙墓が調査されているが、（表1）その多くが12世紀～ 13世紀に位置づけられ、以降の時期のものはほとんど見られない。(1)　周辺の博多遺跡群においては減少の次期がやや早いものの同様の傾向を示し、その理由として埋葬方法の変化と埋葬地の分離の可能性が指摘されている。(2)　SK17については埋葬形態・場所等、前時代の特徴を引き継いでおり、本遺跡の中世後半期における貴重な資料と言えよう。この時期に単独で副葬品を持たない土壙墓が営まれた背景については、今後の周辺調査の進展を待って検討したい。

(1) 榎本義嗣2003「福岡市所在の箱崎遺跡について」中世都市研究会2003九州大会　資料集

(2) 大庭康時1992「博多遺跡群の埋葬遺構について」法哈噠第1号 博多研究会

『筑前國續風土記附録』より

6．福岡市箱崎遺跡 33 次調査出土の中世人骨

高椋浩史・米元史織・中橋孝博
（九州大学大学院比較社会文化学府）

1　はじめに

日本人の骨形態の時代変化の中で、中世期はかなり特異な変化を見せる時代として知られている。強度の長頭性や低顔、扁平な鼻根部に顕著な歯槽性突顎、低身長など、その特異とも言える特徴の形成要因を明らかにすることは、形質人類学における重要な研究課題となっている。今回、報告するのは箱崎遺跡 33 次調査によって出土した中世期の人骨である。箱崎遺跡では過去の発掘調査により人骨数体が出土している。隣接する博多遺跡群を含め中世都市博多の人々の形質的特徴の解明は、中世人の特徴の由来や居住環境と住人形質の関係など人類学の重要な問題を考察する有力な手がかりとなろう。今回出土した人骨は保存状態が悪く、得られた知見は少なかったが、以下にその結果を報告する。

2　資料と方法

資料は成人の人骨一体である。残存部位を図 1 に示し、歯牙は以下の通りである。

									・	・		・			
／	／	／	／	／	／	／	／	／	I^2	C	／	P^2	／	／	／
M_3	○	○	P_2	P_1	C	○	×	×	○	C	P_1	P_2	○	M_2	M_3
・							・					・		・	・

（／：欠損、○：歯槽開放、×：歯槽閉鎖、・：遊離歯）

土垢墓中に頭位を北にした右側臥屈葬で埋葬された個体で、副葬品は見当たらないが、遺構の考古学的検証から、14 － 15 世紀のものと考えられている。計測は主に Martin-Saller（1957）と馬場（1991）に従った。また、脛骨については一部、Vallois（1938）の方法を用いた。

図 1　残存部位

3　分析結果

【性別・年齢】

性別は乳様突起と眼窩上隆起がともに発達しており男性と推定される。年齢は、歯牙の咬耗度が栃原（1957）の 2° b から 3°で、下顎の中切歯部の歯槽が両側とも閉鎖しており、熟年後半以上（50 歳代以上）と推定される。

【頭蓋形態】

頭蓋は歪みが大きいが、顔面部の一部が計測できた〔表 1〕。鼻幅は同時代の平均よりやや大きい。歯槽側面角は 63°で過突顎型に入り、他の中世期集団と同様に顕著な歯槽性突顎を示している。

【四肢骨形態】

四肢骨は骨端部が欠損し、断面径のみ計測可能であった〔表 2〕。上腕骨はすべての項目で比較集団より低い値を示す。大腿骨は横径がやや大きく、矢状径は短く、骨体の横方向の扁平性が見て取れる。脛骨は中央部の矢状径がやや大きく、横径が小さく、やや扁平な傾向が確認できる。ただし、縄文人のような強度の扁平性は認められない。

以上、箱崎遺跡 33 次調査出土の中性人骨は、保存不良ながら一部に歯槽性突顎等、時代性の一端が窺われた。おそらく当地の中世人には、そうした時代性と同時に何らかの地域性も見られるはずであり、今後、資料蓄積を図った上での検討課題としたい。

謝辞　調査・分析に際し、福岡市教育委員会の諸先生に御助力を賜りました。記して感謝申し上げます。

表１　頭蓋計測値の比較

Martin	箱崎 35 次	吉母浜（中世）		鎌倉材木座（中世）		関東室町（中世）		現代西南日本	
		n	M	n	M	n	M	n	M
顔面頭蓋									
54　鼻幅	28	17	26.0	122	26.6	51	26.2	108	25.9
74 歯槽側面角	63	14	65.2	68	60.3	44	62.6	107	70.7

表２　四肢骨計測値の比較

	Martin	箱崎 35 次		吉母浜（中世）				天福寺〔近世〕				九州（現代）			
		R	L	R		L		R		L		R		L	
				n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M
上腕骨															
1	最大長	-	-	16	295.8	16	295.8	22	299.6	21	296.9	106	297.7	106	295.3
2	全長	-	-	14	291.4	14	291.4	20	295.6	19	293.3	106	292.5	106	290.6
5	中央最大径	-	21	20	22.9	20	22.6	24	23.2	22	23.1	106	22.5	106	21.9
6	中央最小径	-	17	20	17.3	20	17.6	24	17.9	22	17.7	106	17.5	106	16.9
7	骨体最小周	-	-	20	62.6	20	62.5	22	63.8	22	63.8	106	62.9	106	61.8
7a	中央周	-	65	20	66.4	20	66.1	24	67	22	66.5	106	64.8	106	63.7
6/5	骨体断面示数	-	81.0	20	75.6	20	78	24	77.4	22	77.6	106	78.1	106	79.1
7/1	長厚示数	-	-	17	21.2	14	21.4	17	21.1	16	21.3	106	21.1	106	20.9
大腿骨															
1	最大長	-	-	18	417.1	16	419.1	19	416.9	20	415.2	62	405.7	59	406.5
2	自然位長	-	-	15	418.7	15	418.1	12	412.8	18	410	62	402.5	59	403.2
6	中央部矢状径	25	-	19	27.7	19	28.1	18	27.7	17	27.7	62	26.5	59	26.5
7	中央部横径	30	-	19	27.5	19	27.7	18	26.7	17	26.9	62	25.2	59	25.6
8	中央周	88	-	19	87.5	19	87.8	17	85.2	17	85.4	61	82.1	59	82.4
9	骨体上横径	32	-	19	32.1	19	32.1	17	30.2	14	30.4	62	29.2	59	29.4
10	骨体上矢状径	23	-	19	24.6	19	24.4	17	26.2	14	26.3	62	24.2	59	24.3
8/2	長厚示数	-	-	14	21.1	14	212.2	8	20.6	13	20.5	61	24	58	24.1
6/7	中央断面示数	83.3	-	19	100.6	19	101.3	17	103.4	17	104.1	61	83	58	82.8
10/9	上骨体断面示数	71.9	-	19	76.5	19	76.1	17	87.3	14	86.7	61	73	58	72.8
脛骨															
1	全長	-	-	14	335.8	12	341.9	13	334.5	13	339.5	64	321.3	61	320.3
1a	最大長	-	-	13	345.2	11	348	17	336.5	16	340.1	64	328.5	60	326.9
8	中央最大径	29	-	20	29.4	20	29.6	13	29.6	14	29.4	64	27.4	61	27.8
8a	栄養孔位最大径	35	-	20	34.1	20	33.8	17	33.1	15	33.7	60	30.5	60	30.6
9	中央横径	20	-	20	21.5	20	21.6	13	22	14	21.9	64	21	61	21.1
9a	栄養孔位横径	24	-	20	23.9	20	24	17	23.9	15	24.1	61	23.8	61	23.7
10	骨体周	79	-	20	80.2	20	80.8	13	79.5	14	80.4	61	78	62	78.4
10a	栄養孔位周	90	-	20	90.8	20	90.8	16	88.9	15	91.3	61	88.5	61	88.9
10b	最小周	-	-	20	74.2	20	74.5	15	73.1	15	73.7	61	71	60	71.3
9/8	中央断面示数	69.0	-	20	73.3	20	73	13	74.5	14	74.8	64	77.1	61	76.1
9a/8a	栄養孔位断面示数	68.6	-	20	70.1	20	71	17	72.3	15	71.9	60	78.3	60	77.5
10b/1	長厚示数		-	14	22.3	12	22	11	22.6	8	21.3	61	22.2	60	22.4

参考文献

阿部英世（1955）：「現代九州人大腿骨の人類学的研究」、人類学研究２

馬場悠男（1991）：「人体計測法　Ⅱ人骨計測法」、人類学講座別巻１、雄山閣出版

原田忠昭（1954）：「現代西南日本人頭骨の人類学的研究」、人類学研究１

鑄鍋命達（1955）：「九州人下腿骨の研究」、人類学研究２

九州大学医学部解剖学第二講座（1988）：「九州大学医学部解剖学第二講座所蔵古人骨資料集成」、日本民族・文化の生成２、六興出版

Martin-Saller（1957）：Lehrbuch der Anthropologie.Bd.I.Gustav Fischer Verlag.Stuttgart

中橋孝博（1987）：「福岡市天福寺出土の江戸時代人頭骨」、人類学雑誌、95：89-106

中橋孝博（1985）：「山口県吉母浜遺跡出土人骨」、吉母浜遺跡、下関市教育委員会

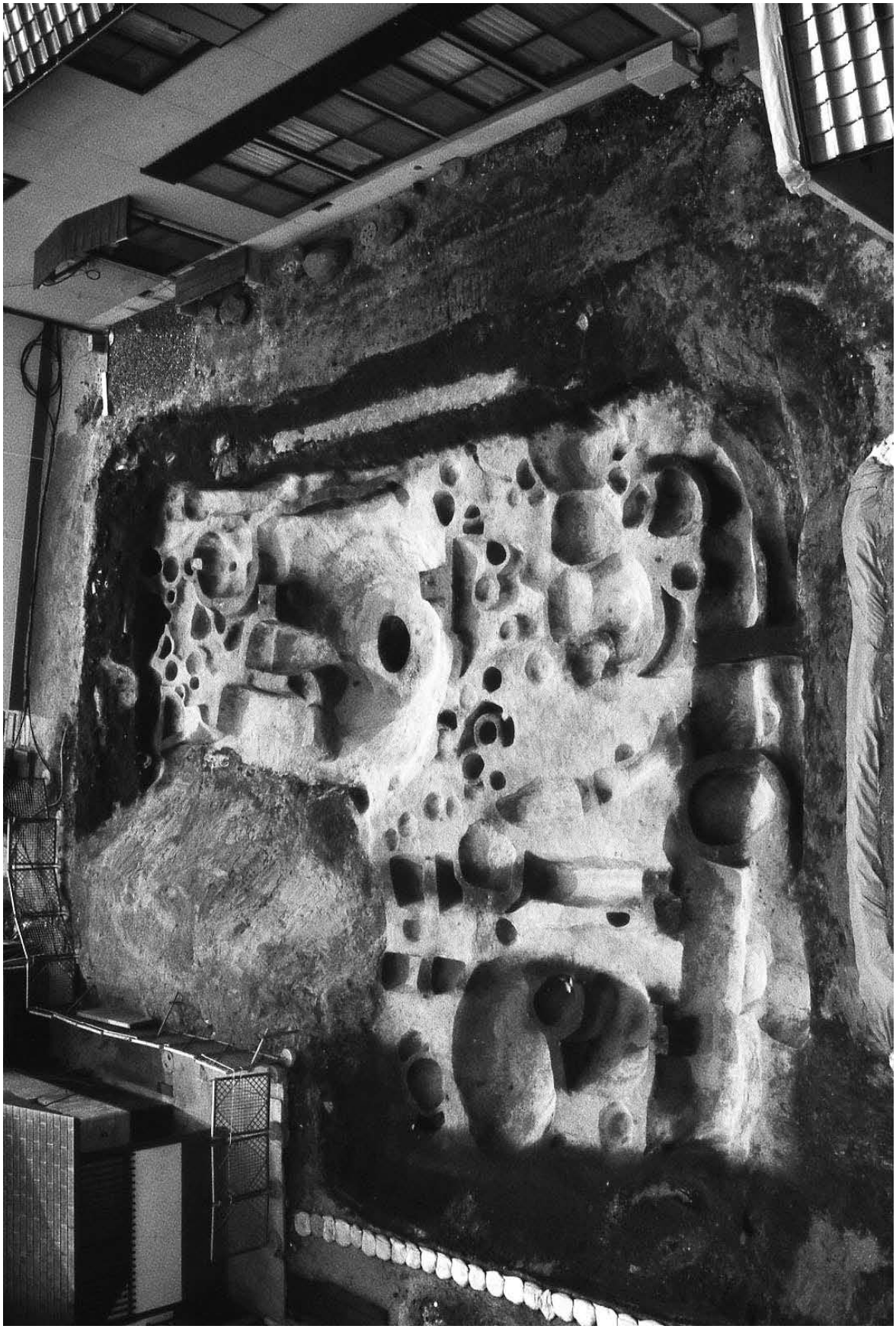
専頭時義（1957）：現代九州日本人上腕骨の人類学的研究、人類学研究 4

鈴木尚・佐倉朔・林都志夫・田辺義一・今井義量（1962）：「東京都芝白金旧海軍墓地に埋葬された江戸末、明治初年の日本人頭骨」、人類学雑誌 22：47-62

鈴木尚（1956）：鎌倉材木座発見の中世遺跡とその人骨、岩波書店

栃原博（1957）：「日本人の歯牙の咬耗に関する研究」、熊本医学会雑誌、31:607-656

Vallois H.V.（1938）：Les methodes de mensuration de la platycnemie:etude critique.Bulletin of Society of Anthropology



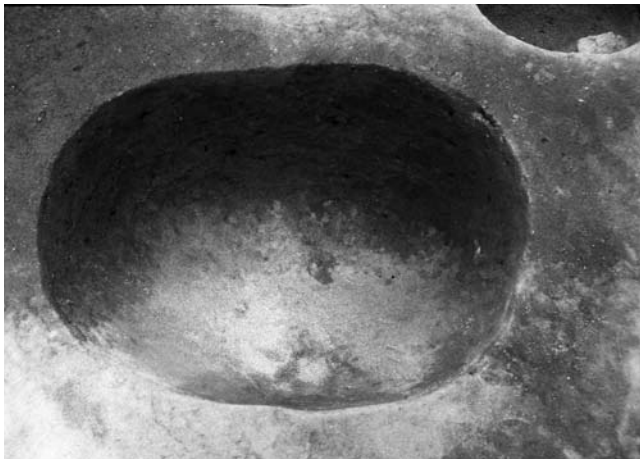
第 33 次調査区全景（東から）

図版4

（1）SE71（西から）

（2）SK2（西から）

（3）SK3（西から）

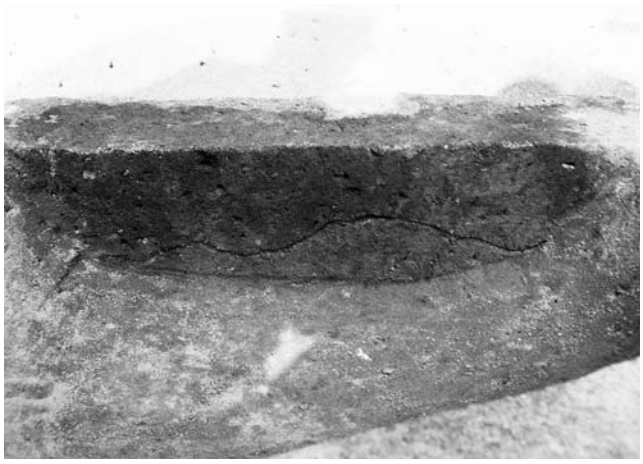


（1）SK4（北から）

（2）SK5（西から）

（3）SK6（西から）

（4）SK37（西から）



（5）SK37 土層（南から）

（6）SK38（西から）

図版6

（1）SK38 土層（北から）

（2）SK39（東から）

（3）SK60（北から）

（4）SK64（東から）

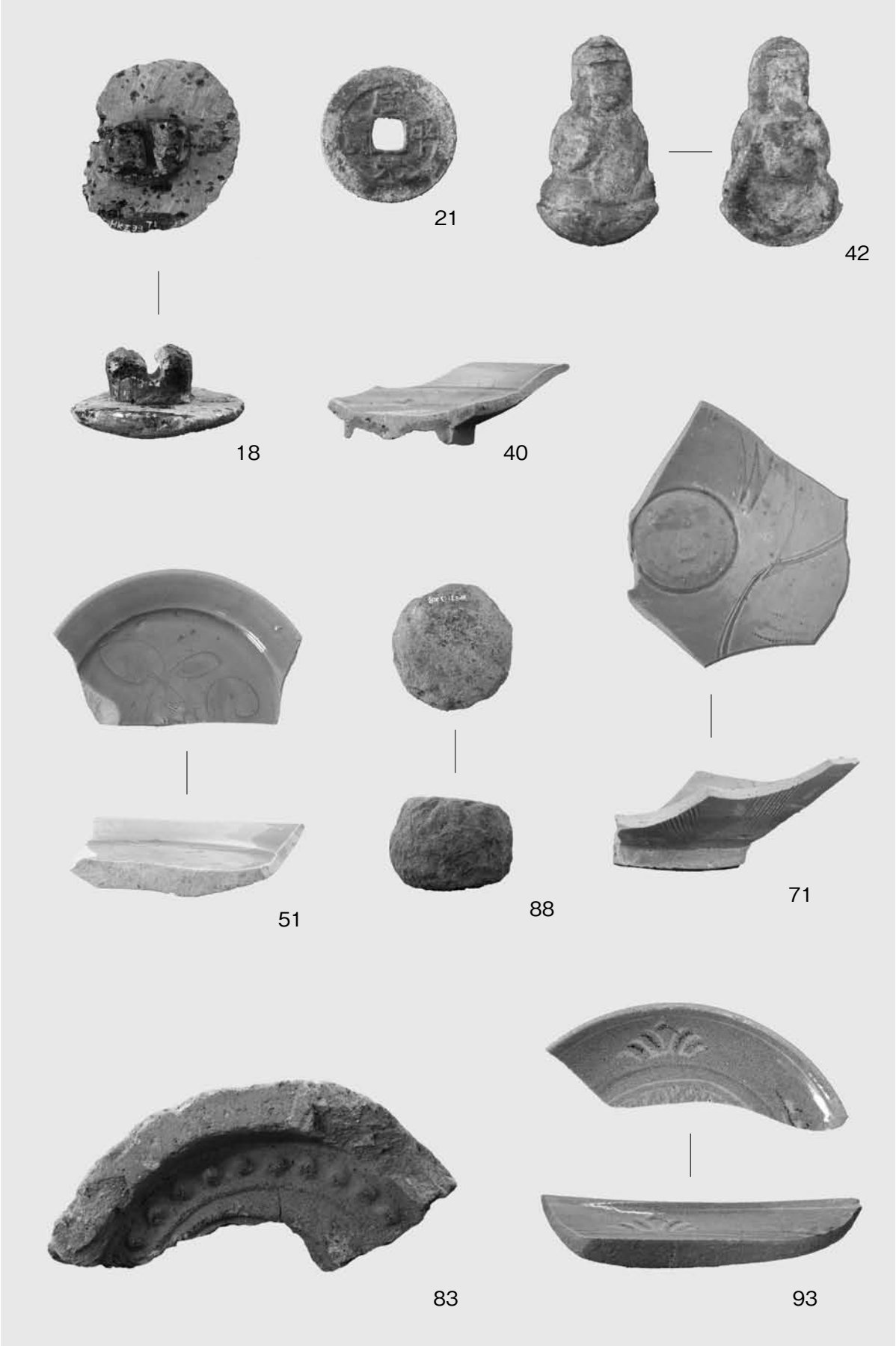
（5）SK67（西から）

（6）SD62・63 土層（東から）

（1）SD69 土層（南から）

（2）SK17（東から）

図版8



第 33 次調査出土遺物

報告書抄録

ふりがな	はこざき
書　　名	箱崎 42
副書名	－箱崎遺跡第 28 次・第 33 次調査報告－
巻　　次	
シリーズ名	福岡市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第 1127 集
編著者名	中村啓太郎
編集機関	福岡市教育委員会
所在地	〒 810-8621 福岡市中央区天神 1 丁目 8 番 1 号 TEL（092）711 － 4667
発行年月日	2011 年 3 月 18 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 （㎡）	調査原因
		市町村	遺跡番号					
箱崎（はこざき）遺跡 第 28 次	福岡市東区馬出（ふくおかしひがしくまいだし）5 丁目	40130	0116	33° 36′ 46″	130° 25′ 24″	20010702 ～ 200110712	41.3	住宅建設
箱崎（はこざき）遺跡 第 33 次	福岡市東区馬出（ふくおかしひがしくまいだし）5 丁目	40130	0116	33° 36′ 50″	130° 25′ 13″	20020924 ～ 20021008	150	納骨堂 建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
箱崎遺跡 第 28 次	集落	中世 近世	土坑 柱穴	土師器 瓦 石製品 鉄製品 瓦器 白磁 青磁	
箱崎遺跡 第 33 次	集落	中世 近世	井戸　土坑　溝 柱穴　埋葬遺構	土師器 須恵質土器 陶器 瓦 石製品 鉄製品 瓦器 白磁 青磁	中世後期の土壙墓を検出

要約	箱崎遺跡は宇美川下流域、多々良川河口左岸の博多湾に面し、南北に延びる砂丘上に位置し、縄文時代晩期～近世に至る各時期の遺構、遺物が確認されている。第 28 次調査区は遺跡の南部に位置し、中世から近世の土抗、柱穴を確認した。第 33 次調査は遺跡の南部、恵光院内に位置する。主として中世の井戸、土坑、溝、土壙墓を確認した。土壙墓は中世後期と考えられ、本遺跡では出土例が少なく貴重である。

箱崎　42
–箱崎遺跡第28次・第33次調査報告–
福岡市埋蔵文化財調査報告第1127集
2011年（平成23年）3月18日
発行　福岡市教育委員会
（福岡市中央区天神1–8–1）
印刷　株式会社エージェント